

第3章 ホイアン地域の遺跡分布調査

阿部百里子・菊池誠一・江川真澄・岡野佐知子・吉田泰子

1 調査目的と方法、経過

われわれ考古学調査隊のホイアン研究の目的は、旧市街地の都市形成史を解明すること、そしてホイアン地域の形成と展開を南シナ海交易世界とベトナム史のなかに位置づけることである。そのため、前者の方法として、旧市街地における発掘調査を実施し、後者の方法として、トゥーボン川流域の広域分布調査を1997年3月、1998年3月、1999年3月にハノイ国家大学と協同して実施してきた（図1・2）。1997年の調査ではトゥーボン川左岸の海岸線から国道1号線まで、1998年の調査ではトゥーボン川右岸の海岸線から国道1号線までと中洲を、1999年の調査では国道1号線から内陸部を踏査した。また、1998、1999年の調査では自然地理学の専門家にも同行していただき、地形と遺跡の分布のあり方についても調査した。

ホイアン地域では、昭和女子大学やハノイ国家大学、クアンナム省、ホイアン市等の専門家による考古学発掘調査が盛んに行われているが、ベトナム側が行っているのは先史から古代に偏っており、主にサーフィン文化やチャンパ時代の遺跡を対象とした調査であり、発掘調査において近世の陶磁器類が出土しても、これらの遺物が報告されることはほとんどなく、ホイアン地域の歴史を叙述する上で不完全であった。

本章は、われわれが実施した分布調査で遺物が確認された各地点と、採集した遺物の概要を報告するものである。また、ベトナム側で発掘調査されたが、まだ公表されていない遺跡については、重要な遺跡にかぎり調査者の許可を得て報告する。本稿で報告しなかった遺跡についても、分布図にその地点を記しておく。

2 遺跡と表採遺物

(1) トゥーボン川左岸

遺物が分布するのは、ホイアン旧市街地、ハウサー地点、チャンソイ地点、アンバン地点、ホイアン・タインチェム地点、潮州会館、カムアン社、ランバー地点、カムチャウ社、ソンフォン地点、ディエンバン・タインチェム地点である。ハウサー、チャンソイ、アンバンの各地点は内陸寄りの砂丘上に位置し、先史から古代の遺物が分布している。16世紀末以降の遺物は海岸線から国道1号線までの広範囲で分布している。なお、ホイアン旧市街地の遺跡については『国際文化研究所紀要』Vol.4に、ディエンバン・タインチェム地点については『海のシルクロードからみたベトナム中部・南部の考古学的研究』（シルクロード学研究 Vol.15）で詳細に報告しているため、本稿では割愛する。

a. ハウサーⅠ・Ⅱ (Hau Xa) 地点 (図1-⑧、図3・4)

ハウサーⅠ・Ⅱ地点はカムハー社第4地区に属し、トゥーボン川左岸のゾックゴムと呼ばれる砂丘上に位置する。Ⅰ地点は1989年から、Ⅱ地点は1993年から発掘調査され、それぞれサーフィン文化に属する甕棺が検



① 打ち合せ (1998年3月)



② チュンフォン地点



③ ノイザン地点船着き場



④ コンチャム地点



⑤ 清涼寺



⑥ キムボン寺



⑦ チャン川地点



⑧ ホウサー

図1 各踏査地点



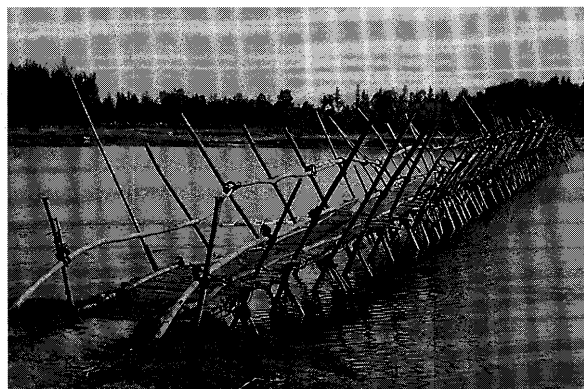
⑨ 打ち合わせ



⑩ 考古学・自然地理学共同調査



⑪ 自然地理学調査



⑫ ホイアンの竹橋



⑬ チャンパ王国の都ドンズオン遺跡見学、前列左から2人目が劉蘭華氏、右端が故チン・カオ・トゥオン氏

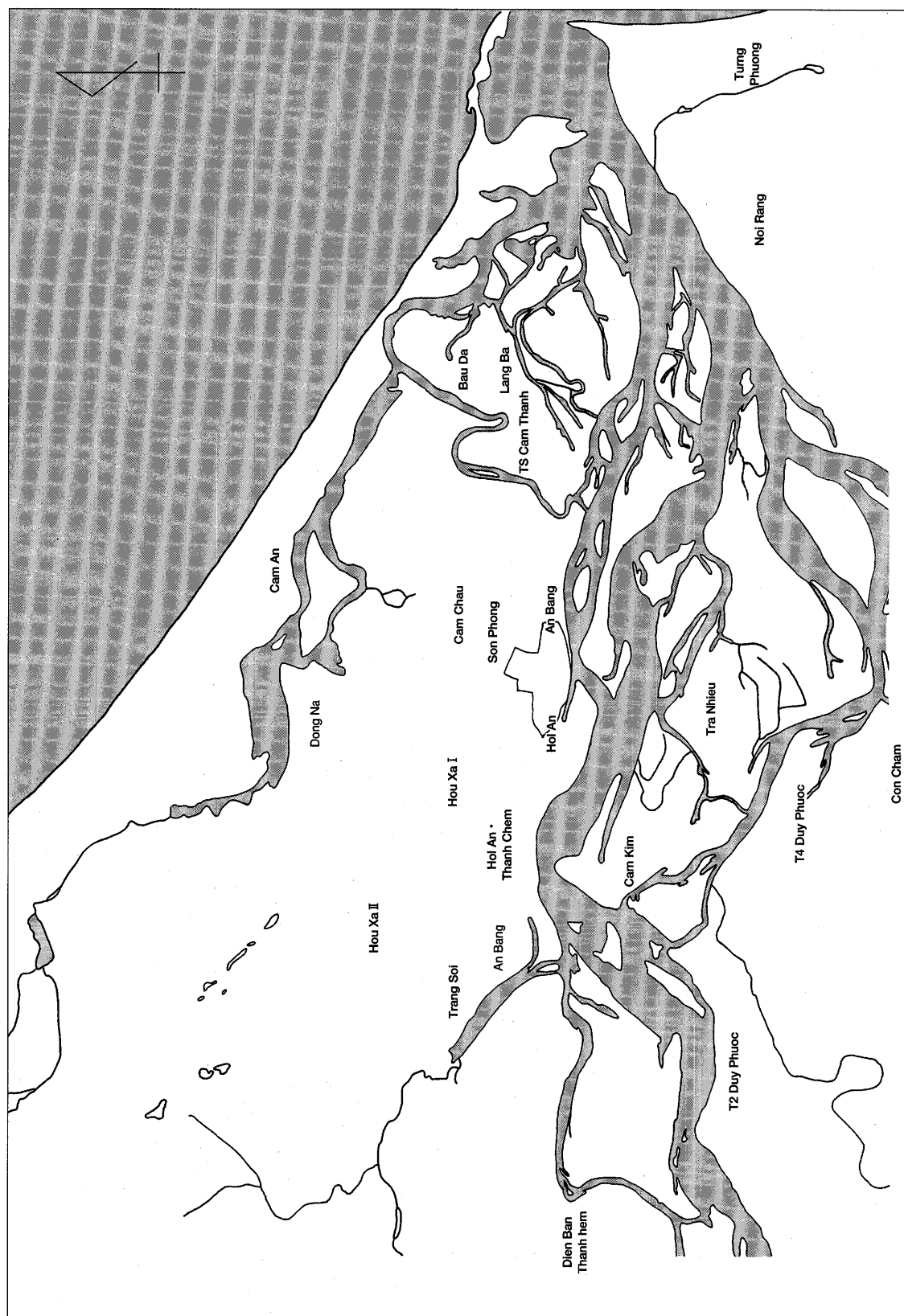


図2 トゥーボン川流域の遺跡分布

出されている。われわれは広域にまたがるⅠ・Ⅱ地点の踏査をしたが、明確にⅠ・Ⅱ地点の境界をわけることができなかったため、以下では両地点で採集した遺物をまとめて報告することにした。

1はベトナムの印文陶片である。胎土は橙色で精緻、焼成は良好である。色調は内外面ともににぶい橙色である。チャンパ時代初期の遺物か。

2は中国越州窯系の鉢である。胎土はや灰白色で精緻である。釉は灰オリーブ色で、見込みに胎土目痕がみられる。畳付には目積みして焼けた痕が残る。9から10世紀の製品であろう。

3は越州窯系の鉢の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好。釉はオリーブ黄色で、胴下半部から高台内にかけては無釉である。見込みと高台外面に胎土目積み痕があり、一部胎土目が付着する。

4はベトナム中部の焼締長胴瓶の口縁部破片である。胎土は橙色で精緻、焼成は良好である。色調は内外面共に赤褐色である。口縁部下に浅い沈線が2本ある。

5はベトナムの土器鉢の口縁部破片である。胎土は褐灰色で白色砂粒を多く含む。色調は内外面共に灰褐色である。口縁部内面に刻みがあり、肩部に2本の沈線がみられる。

6は中国景德鎮窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰白色で、呉須の発色も良い。高台部にカンナ削りがみられる。17世紀前半の製品である。

7は景德鎮窯系の青花碗の胴底部破片である。外面に寿字文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色の透明釉で、呉須の発色も良い。17世紀後半から18世紀初頭の製品であろう。

8は中国福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰色である。釉は薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は薄暗い。大きめの貫入がみられ、畳付には砂粒が付着している。17世紀前半の製品である。

9は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。見込みに菊花文がみられる。胎土は灰白色で粗く、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須は黒っぽく発色している。高台内に一部砂粒が付着している。17世紀後半から18世紀前半の製品である。

10は中国漳州窯系の跳魚文碗の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好。釉は灰白色をおびた透明釉で、呉須の発色は薄い。高台は一部無釉で、砂粒が付着する。16世紀末から17世紀前半の製品である。

11は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で粗く、焼成は良好である。釉は内面が灰白色の透明釉で、外面が薄青色をおびる。18世紀頃の製品である。

12は中国の青花鉢の胴部破片である。胎土は暗灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好である。18世紀後半から19世紀初頭の製品である。

13は徳化窯系の青花皿である。口ハゲで型作りである。胎土は灰白色で、焼成は良好である。釉は灰白色をおび、呉須の発色は薄い。高台に砂粒が付着している。18世紀の製品である。

14は景德鎮窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻であり、焼成は良好である。釉は灰白色をおび、呉須の発色は良好である。高台部にカンナ削り痕がみられる。18世紀の製品である。

15は福建・広東窯系の口紅小碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で不良、焼成は良好である。釉は薄い青灰色をおび、呉須の発色は良好である。17世紀末から18世紀の製品である。

16は徳化窯の白磁小杯の底部破片である。胎土は白色で、焼成は良好。18世紀後半から19世紀前半。

17は徳化窯の白磁小杯である。口ハゲで、型作りである。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。18世紀から19世紀の製品である。

18は景德鎮窯系の蓋又は小皿である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰白色をおび、呉須の

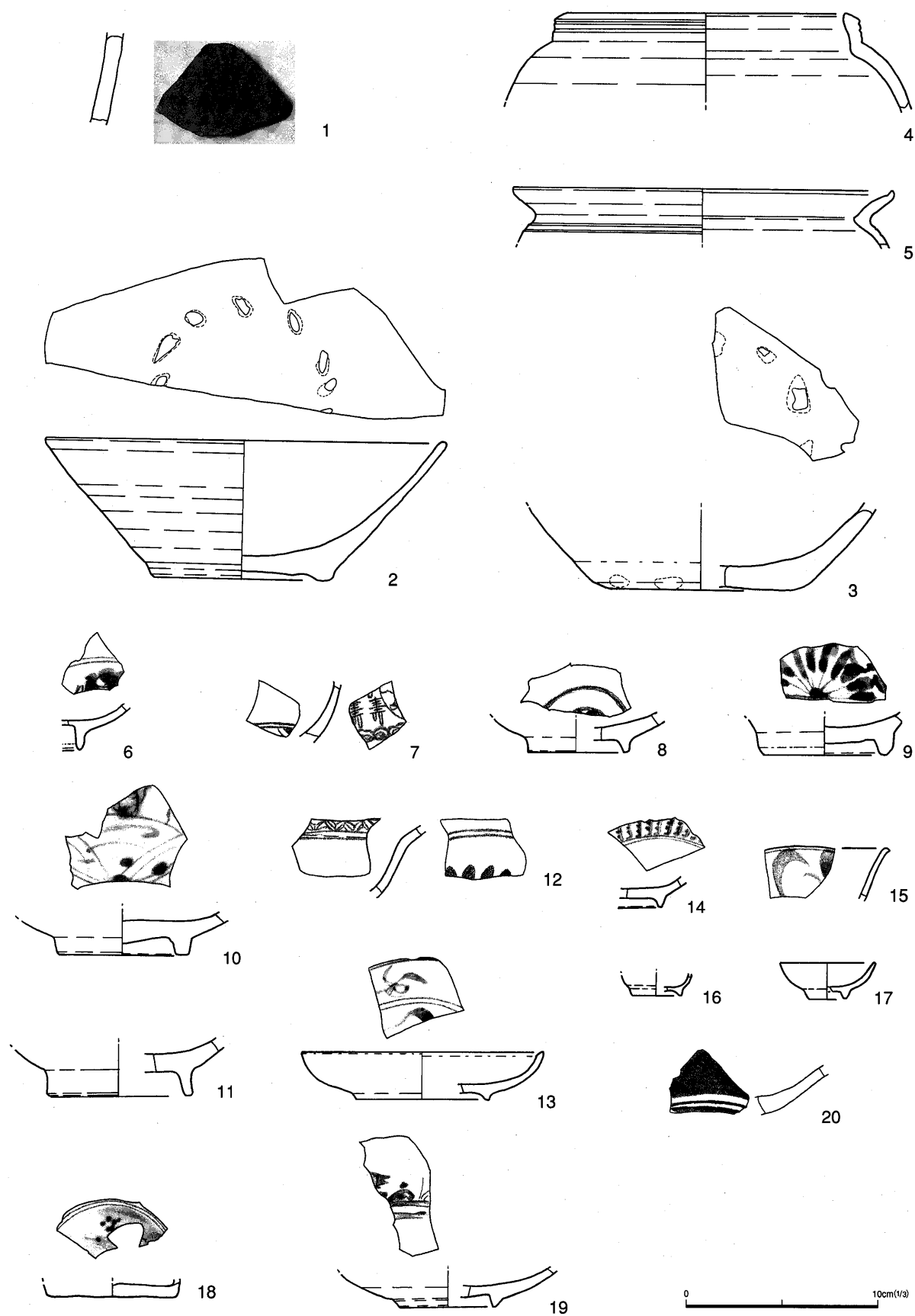


図3 ホウサー (Hau Xa) 地点表採遺物

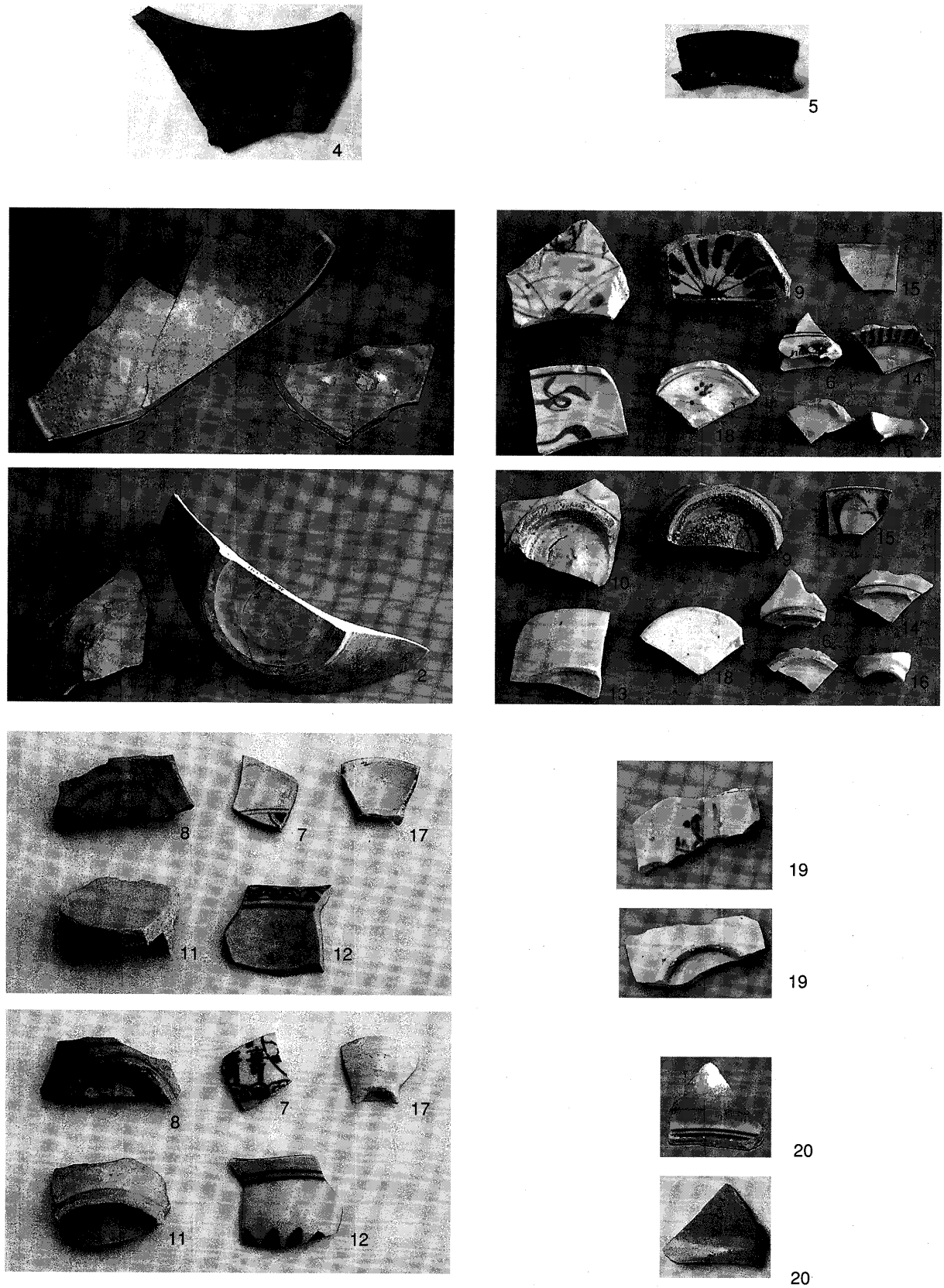


図4 ホウサー (Hau Xa) 地点表探遺物写真

発色は良好である。17世紀末から18世紀の製品である。

19は日本・肥前の染付皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青灰色をおび、呉須の発色はかなり暗い。ピンホールがみられ、畳付には部分的に小砂粒が付着する。

20は肥前の青磁染付皿の胴部破片と考えられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は緑灰色で均一、呉須の発色は明るい。貫入はみられない。18世紀後半の製品であろう。

b. チャンソイ (Trang Soi) 地点 (図5・6)

チャンソイ地点はカムハー社5A地区に属する。ゾックゴムとよばれるトゥーボン川旧河川の北側の砂丘上に立地し、1994年にベトナム側によって発掘調査され、越州窯や龍泉窯系の青磁やイスラム陶器が出土した(図6右下の写真参照)。チャンパ時代～現在までの遺物が分布する。以下に表採した遺物を報告する。

1は中国西村窯の白磁鳳首瓶である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で暗灰白色をおびる。部分的に細かい貫入がみられ、内部は無釉である。嘴内面に接合痕があることから、顔部は型作りして合わせたと思われる。内面にロクロ回転の時のしぼった痕跡がみられる。12世紀から13世紀の製品であろう。

2は中国龍泉窯系の青磁碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰オリーブ色で、高台部はかなり濃く発色している。14世紀から15世紀初頭の製品であろう。

3はベトナム北部の焼締長胴瓶の胴部破片である。外面に“縄籬文”がみられる。胎土は褐灰色で精緻、焼成は良好。色調は外面が灰褐色、内面は褐灰色である。

4はベトナム中部の焼締広口壺の口縁部破片である。肩部に3～4本単位のゆるやかな波状文があり、胴部にも波状文が施されている。胎土は淡赤橙色で小砂粒を若干含む。焼成は良好である。色調は外面が褐灰色で、内面はにぶい橙色である。

5はベトナムの焼締鉢の口縁部破片である。外面に4本単位のゆるやかな波状文がみられる。胎土は灰黄色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が灰色、内面は赤灰色である。口縁端部に溶着痕がみられる。

6はベトナム中部の線条文鉢の口縁部破片である。胎土は小砂粒を多く含む、焼成は良好である。色調は外面が橙色で、内面はにぶい褐色である。

7はベトナムの土器蓋の破片である。内外面にススが付着し、内面にロクロ痕が残る。

8は中国景德鎮窯系の青花碗の底部破片である。見込みに花文を描く。胎土は灰白色で精緻である。薄青色をおびた透明釉で、呉須は濃く鮮明に発色する。高台内にはカンナ削り痕がみられ、その部分は凹んでいる。17世紀後半から18世紀前半の製品である。

9は景德鎮窯系の青花碗の胴部から底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青色をおびる。呉須は鮮明に発色しており、とくに見込み圏線の発色が濃い。17世紀の製品である。

10は景德鎮窯系の青花碗の底部破片である。外面に唐草文を描く。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須は鮮明に発色する。畳付の釉剥部分は明茶褐色になっている。17世紀末から18世紀中葉の製品である。

11は中国福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰色で、若干の空隙がみられる。薄青色をおびた透明釉で、部分的に褐色の斑点がみられる。呉須は高台付近が黒褐色で、胴部はにじんでやや暗く発色している。見込みは蛇の目釉剥である。17世紀末から18世紀の製品である。

12は中国漳州窯系の青花碗の口縁部破片である。外面に区画して花唐草文を描く。胎土は灰白色で精緻、

焼成は良好である。釉はやや黄味を帯びた灰白の透明釉で、呉須の発色は暗くてオリーブに近い。16世紀末から17世紀前半の製品である。

13は福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の口縁部破片である。胎土は灰白色、焼成は良好である。釉は薄い青灰色をおびた透明釉で、呉須の発色は薄い。18世紀の製品である。

14は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成はやや良好である。透明釉で薄青色をおび、呉須はややにじんでいる。見込みの文様は暗く発色している。見込みは蛇の目釉剥され、高台内には「双春」の銘がみられる。18世紀の製品である。

15は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。見込みの釉は剥落しており、外面は淡黄色に変色している。呉須は深青色に近い発色で、高台内は釉と呉須が混ざって白濁している。17世紀後半から18世紀初頭の製品である。

16は中国の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好である。釉は薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は普通である。17世紀から18世紀の製品と思われる。

17は景德鎮窯系の青磁皿、もしくは鉢の口縁部破片と思われる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄緑色で、口縁端部に口紅が施されていたと思われる。18世紀頃の製品である。

18は福建・広東窯系の青花皿、もしくは鉢の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で緑色をおび、高台内は無釉である。見込みは蛇の目釉剥である。17世紀末から18世紀の製品である。

19は景德鎮窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須は鮮明に発色している。畳付の釉剥部分は茶褐色である。17世紀後半から18世紀初頭の製品である。

20は漳州窯系の青花折縁皿の口縁部破片である。内面に窓絵花文を描く。胎土は灰白色でやや粗い。緑灰色をおびた透明釉で、呉須の発色はかなり暗い。16世紀末から17世紀前半の製品である。

21は福建・広東窯系の青花小坏の底部破片と思われる。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で、呉須はきれいに発色する。高台内に「玉」と思われる銘がみられる。18世紀の製品である。

22は中国徳化窯の青花碗の底部破片である。型作りである。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色はやや薄い。口ハゲがみられる。18世紀前半の製品である。

23は景德鎮窯系の袋物の胴部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。呉須は濃く鮮明に発色している。17世紀後半から18世紀初頭の製品である。

24は日本・肥前の染付寿字鳳凰文皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は良好である。外面に貫入がみられる。17世紀後半の製品である。

25は肥前の染付瓶の胴部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉はやや青色をおび、呉須の発色は良好である。17世紀後半の製品である。

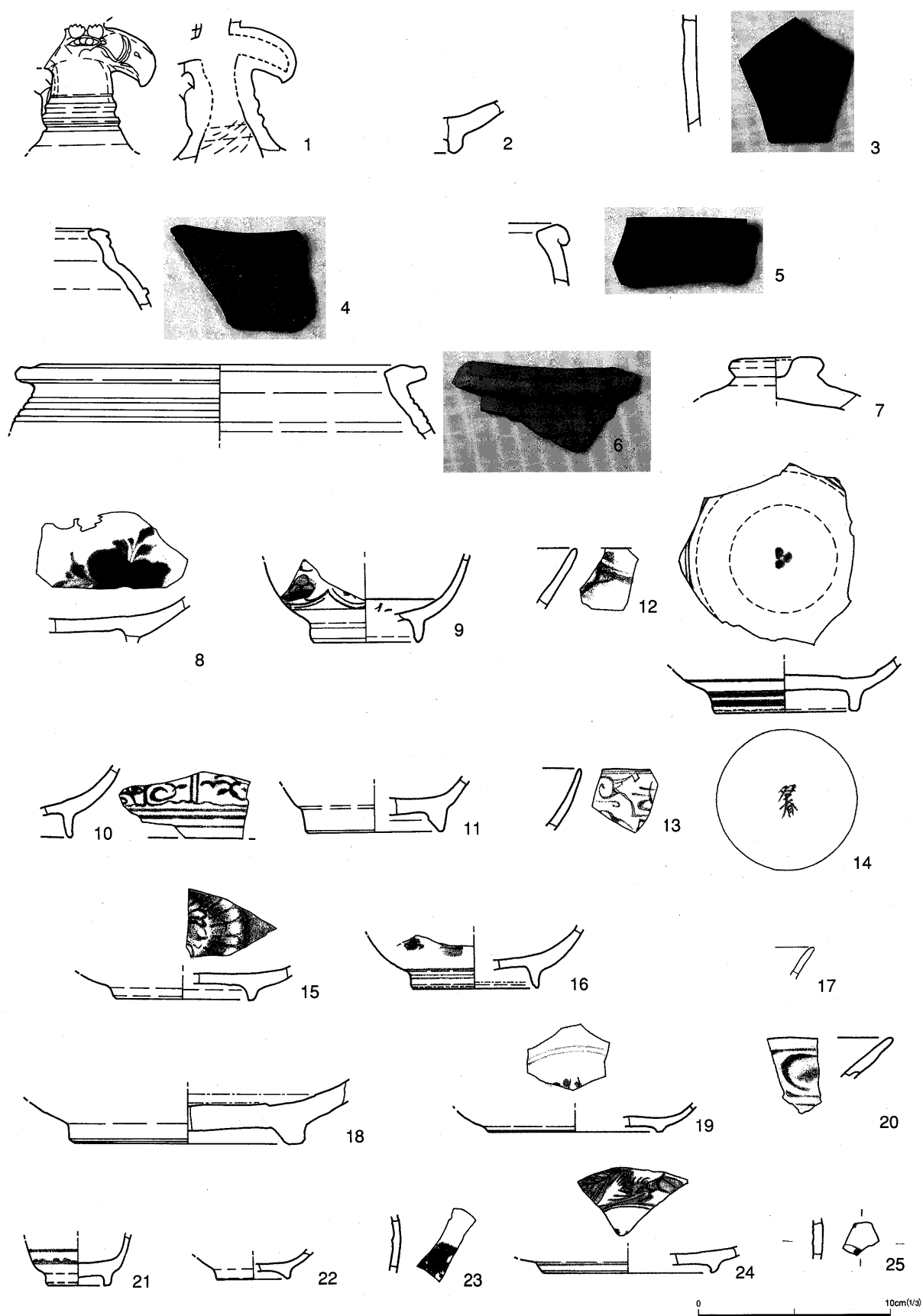


図5 チャンソイ (Trang Soi) 地点表採遺物図

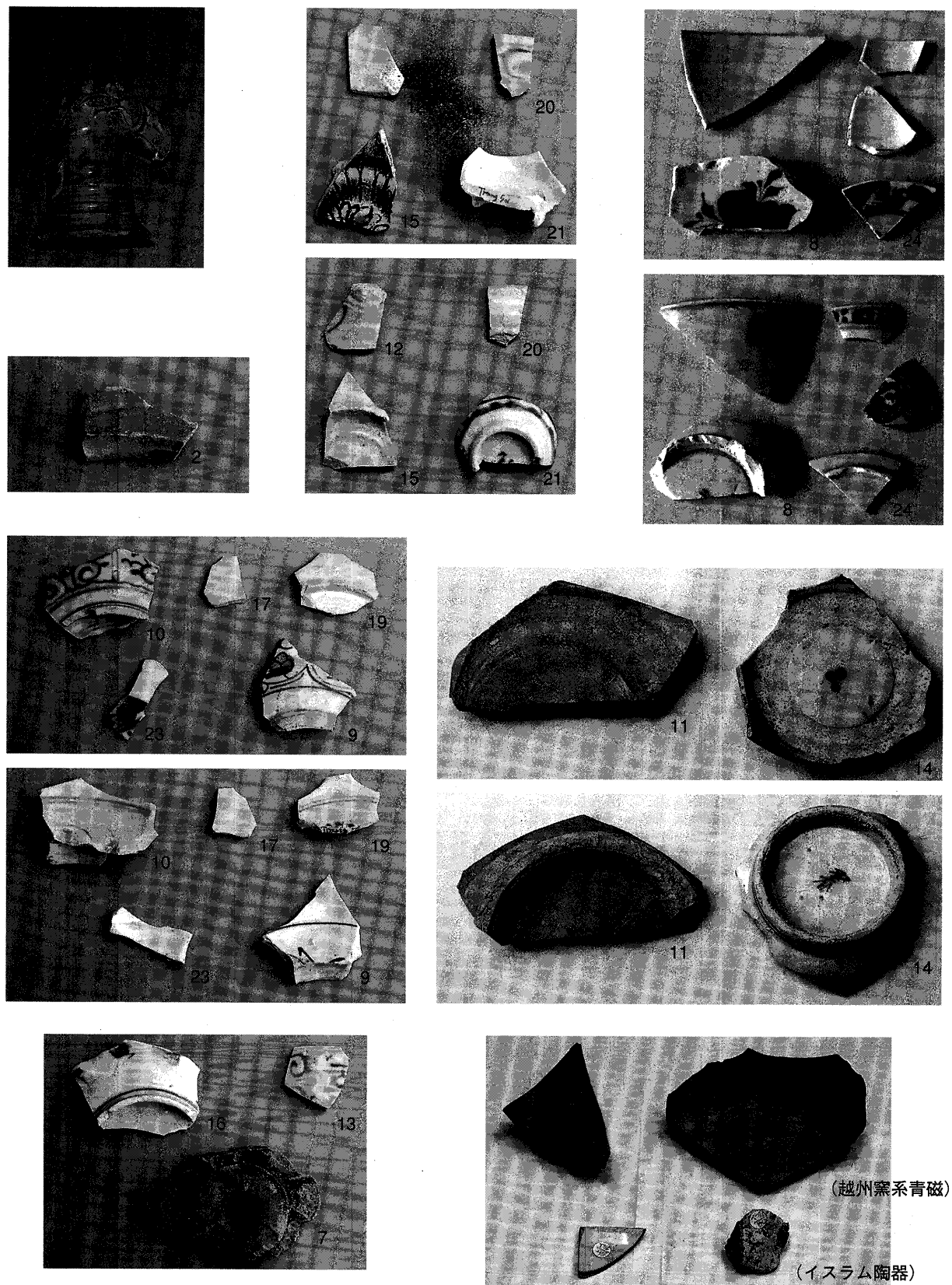


図6 チャンソイ (Trang soi) 地点表探遺物写真

c. アンバン (An Bang) 地点 (図7)

アンバン地点はカムハー社第6地区に属し、トゥーボン川左岸のゾックゴムと呼ばれる砂丘上に立地する。1989年から発掘調査されており、先史時代のサーフィン文化の遺物が見られる。以下に表採した遺物を報告する。

1はベトナムの土器鉢の口縁部破片である。胎土は黒褐色で小砂粒を多く含む。色調は内外共ににぶい黄橙色である。この土器片は先史時代のサーフィン文化の土器である。

2はベトナムの焼締長胴瓶の肩部破片である。肩部上位に6本単位の平行沈線があり、その下に7本単位の波状文が見られる。胎土は暗赤褐色で微量の小砂粒を含む。焼成は良好である。色調は外面が極暗赤褐色、内面が赤褐色である。

3はベトナム中部の焼締長胴瓶の口縁部破片である。口縁部に2本の沈線がみられる。胎土は褐灰色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が極暗赤褐色、内面が褐灰色である。

4はベトナムの焼締瓶の肩部破片である。肩部に3本の浅い沈線がみられる。また、頸部内面に絞り痕がみられる。胎土は灰色で精緻、焼成は良好である。色調は内外共に灰色である。

5はベトナムの焼締鉢の口縁部破片である。外面に波状文がみられる。胎土は灰黄色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が極暗赤褐色、内面が灰黄色である。

6は中国景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。外面に山水文を描く。胎土は白色で精緻、焼成は大変良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は鮮明である。17世紀後半から18世紀後半の製品である。

7は中国福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉である。18世紀中頃から19世紀前半の製品である。

8は中国漳州窯系の青花折縁皿の底部破片である。見込みに花鳥文を描く。胎土は灰白色でやや粒子が粗い。焼成は不良である。やや黄色味をおびた透明釉で、見込み部分の呉須はくすんでいる。高台内に細かく小さいピンホールが多く、砂粒が付着する。16世紀末から17世紀前半の製品である。

9は日本・肥前染付見込み荒磯文碗の底部破片である。胎土は灰白色で、高台内のみ淡黄色である。焼成にムラが見られる。薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色はよい。外面や高台内にピンホールが多くみられ、細かな貫入が多い。17世紀後半の製品である。

10は肥前の染付小碗の口縁部破片である。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は良好である。貫入が多くみられる。17世紀後半の製品である。

11は肥前染付皿の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好である。やや暗めの薄青色をおびた透明釉で、呉須は暗く発色し、にじむ。外面と畳付に細砂粒が付着している。17世紀代の製品である。

12は肥前染付「日」の字鳳凰文皿の見込み部の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好。透明釉で、呉須は青灰色に発色している。高台内にピンホールが多くみられる。17世紀後半の製品である。

13は肥前の染付袋物である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。ややくすんだ薄青色をおびた透明釉で、呉須は薄く、線が明瞭に発色している。内面は無釉である。17世紀代の製品である。

14は肥前の染付瓶の頸部から肩部にかけての破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。やや厚ぼったい透明釉で薄青色をおび、呉須の発色は良好である。頸部に貫入が見られる。17世紀前半の製品である。

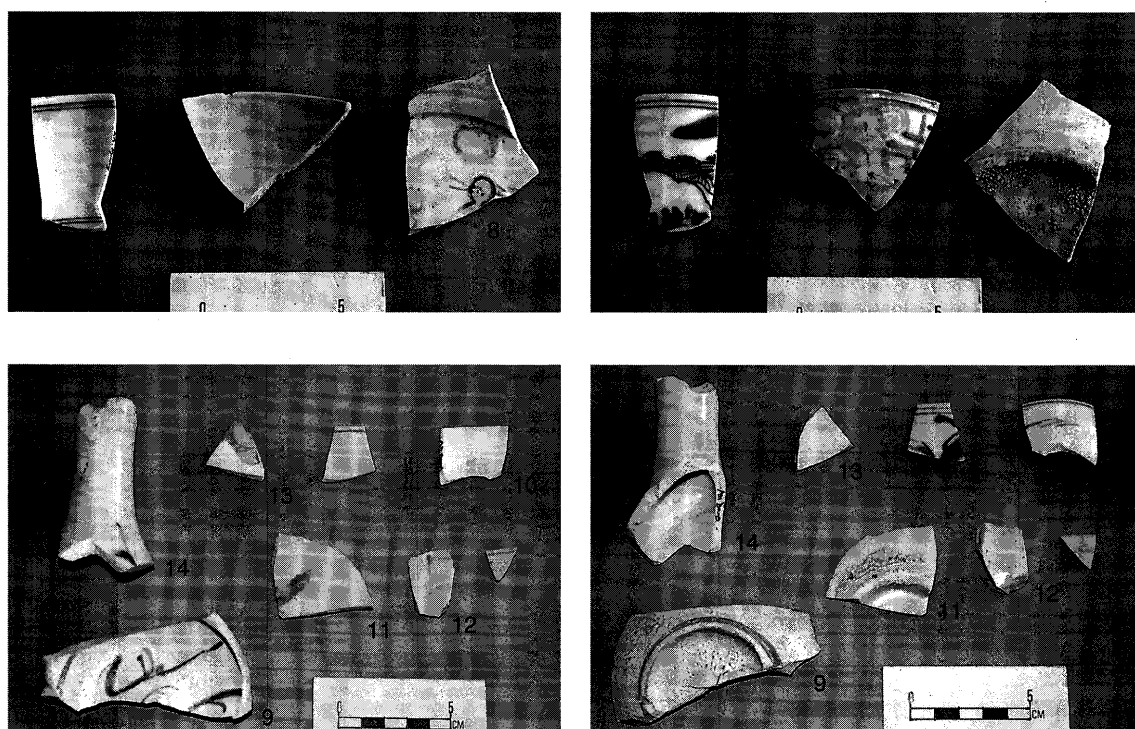
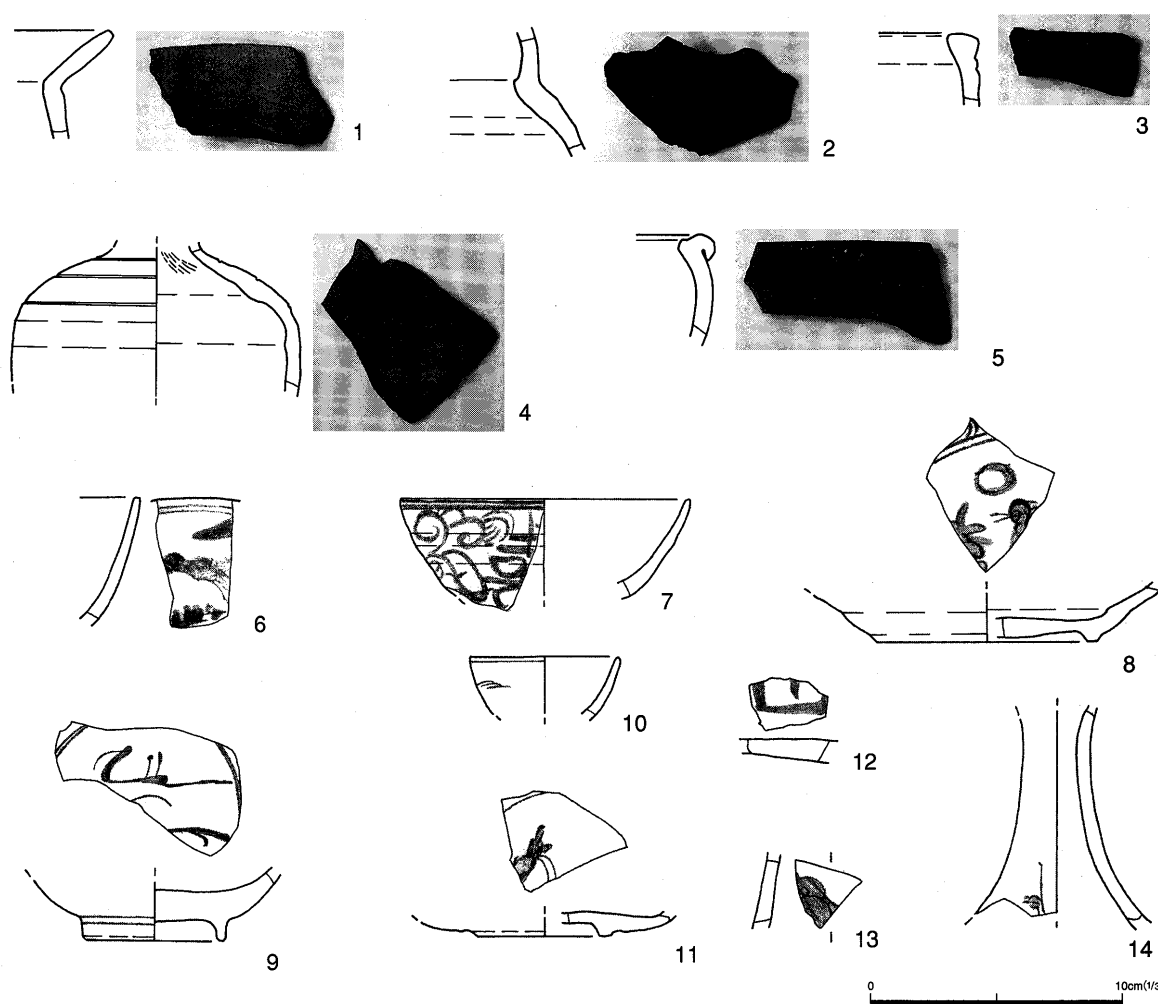


図7 アンバン (An Bang) 地点表採遺物図・写真

d. ホイアン・タインチエム (Thanh chiem) 地点 (図8)

ホイアン・タインチエム地点はカムハー社第6地区に属する。この地点は1989年にハノイ総合大学(現、ハノイ国家大学)が中心となって発掘調査され、サーフィン文化の遺物のほかに17世紀前半の中国陶磁器や17世紀後半の肥前磁器、ベトナム陶器などが出土した。地元民の伝承によると古窯跡があったという地点である。発掘調査では古窯跡は確認できなかったが、17世紀を中心とする陶磁器がおおく出土した。以下に、その調査のうちに出土し、現在ホイアン市貿易陶磁博物館に展示されている肥前磁器を報告する。

1は日本・肥前の染付大皿である。見込に花鳥文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青色をおびる。呉須は明るめに発色する。畳付は釉剥され、底部に2カ所の目跡が残る。ピンホールがみられる。有田市の長吉谷窯跡で、同様の製品が発見されている。

2は肥前の染付皿である。内面に「日」の字と鳳凰文を描く。胎土は黄色みがかった灰白色で精緻、焼成は良好である。灰白がかった透明釉。呉須は暗めに発色しており、圏線はオリーブ色がかかる。畳付に細かい砂粒が付着している。外面下方に貫入がやや多くみられる。高台側面にピンホールがみられる。

3は肥前の染付瓶の底部である。胎土は灰白色で精緻だが、細かい空隙がみられる。焼成は良好。外面には透明でやや薄青色をおびた透明釉が厚ぼったく掛かる。内面は無釉。呉須はやや暗く発色する。畳付は釉剥きされ、内面に細かい砂粒が付着している。外面下方には、成形時に付いたと思われる、底部から胴部に向けたハケの痕跡が残る。内面には横方向のロクロ目が見られる。

4は肥前の染付瓶の底部である。外面に草花文を描く。胎土は黄色みがかった灰白色で精緻。焼成は良好。外面には透明でやや薄青色をおびた透明釉が掛かり、高台付近はむらがあり厚ぼったく掛かる。高台内は釉がひび割れる。内面は無釉。呉須はやや暗く発色する。畳付は釉剥きされ、内面に細かい砂粒が付着する。

e. カムチャウ (Cam Chau) 社 (図9)

ホイアン旧市街地の北側一帯で、現在は墓地が集中する。17世紀に作られた日本人の墓があるのも、この地域である。17世紀代の陶磁器が比較的多く分布していた。以下に表採した遺物を報告する。

1は中国景德鎮窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は薄い。17世紀前半の製品であろう。

2は景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好である。17世紀代の製品であろう。

3は中国福建・広東窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉にムラが見られ、呉須の発色は暗い。17世紀前半の製品であろう。

4は福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青色をおび、呉須の発色は良好である。18世紀代の製品であろう。

5は福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。透明釉で薄青色をおび、呉須の発色は良好である。18世紀後半から19世紀前半の製品であろう。

6は景德鎮窯系の青花皿の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好だが外面の発色は暗い。ピンホールと口縁部に虫食いが見られる。17世紀前半の製品。

7は景德鎮窯系の青花大皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻。焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好である。17世紀後半から18世紀前半の製品であろう。

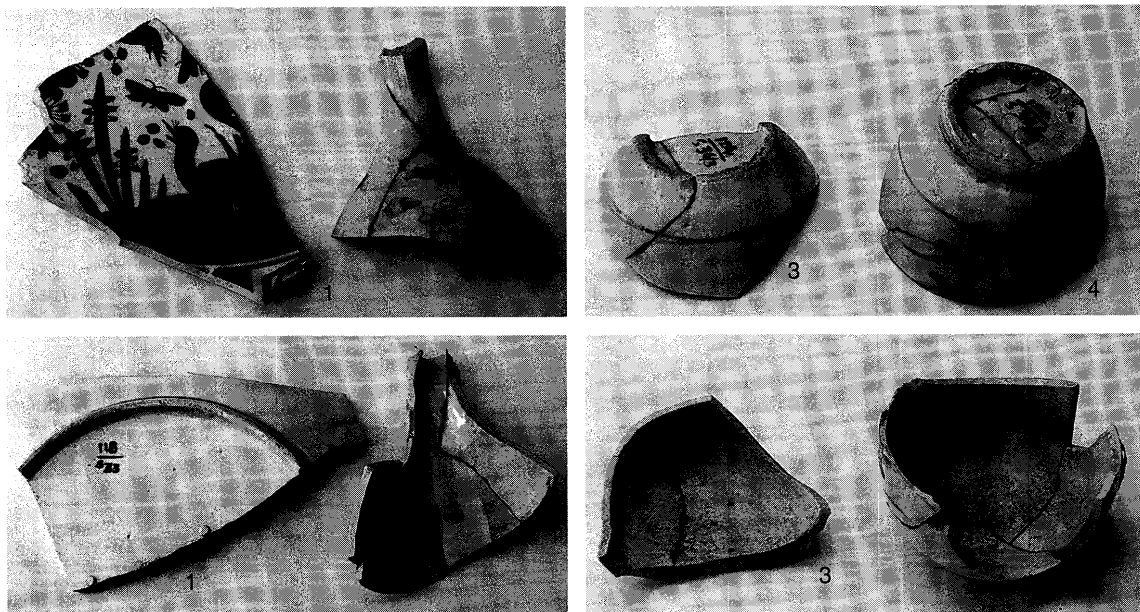
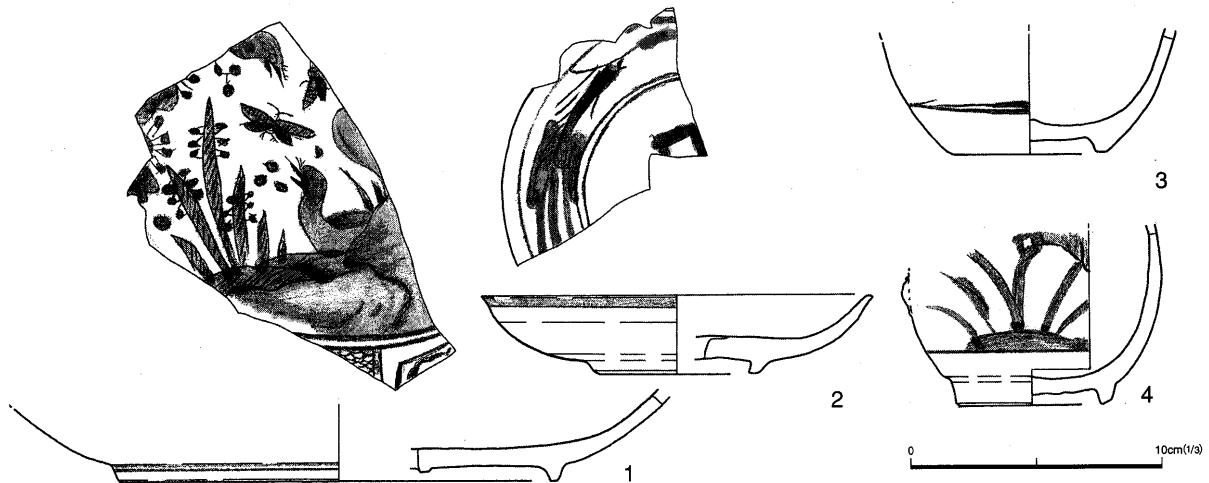


図8 ホイアン・タインチェム (Thanh Chiem) 地点表探遺物図・写真

8は福建・広東窯系の青花皿の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻である。釉は薄青色をおび、釉にムラがみられる。呉須の発色は良好である。17世紀前半の製品であろう。

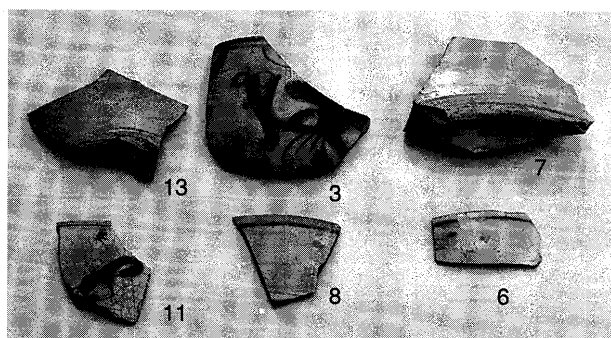
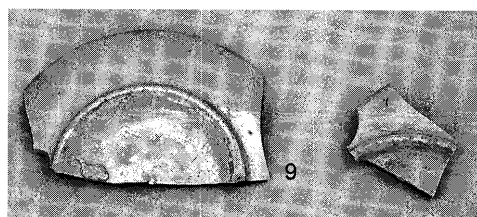
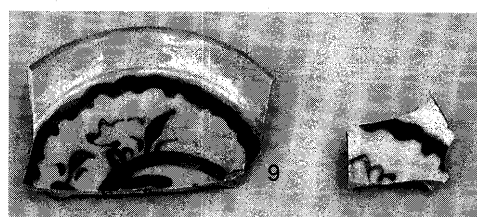
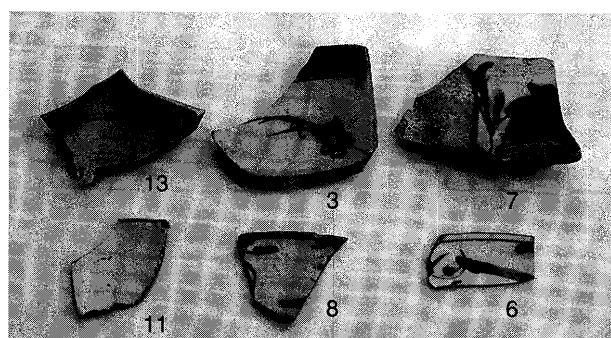
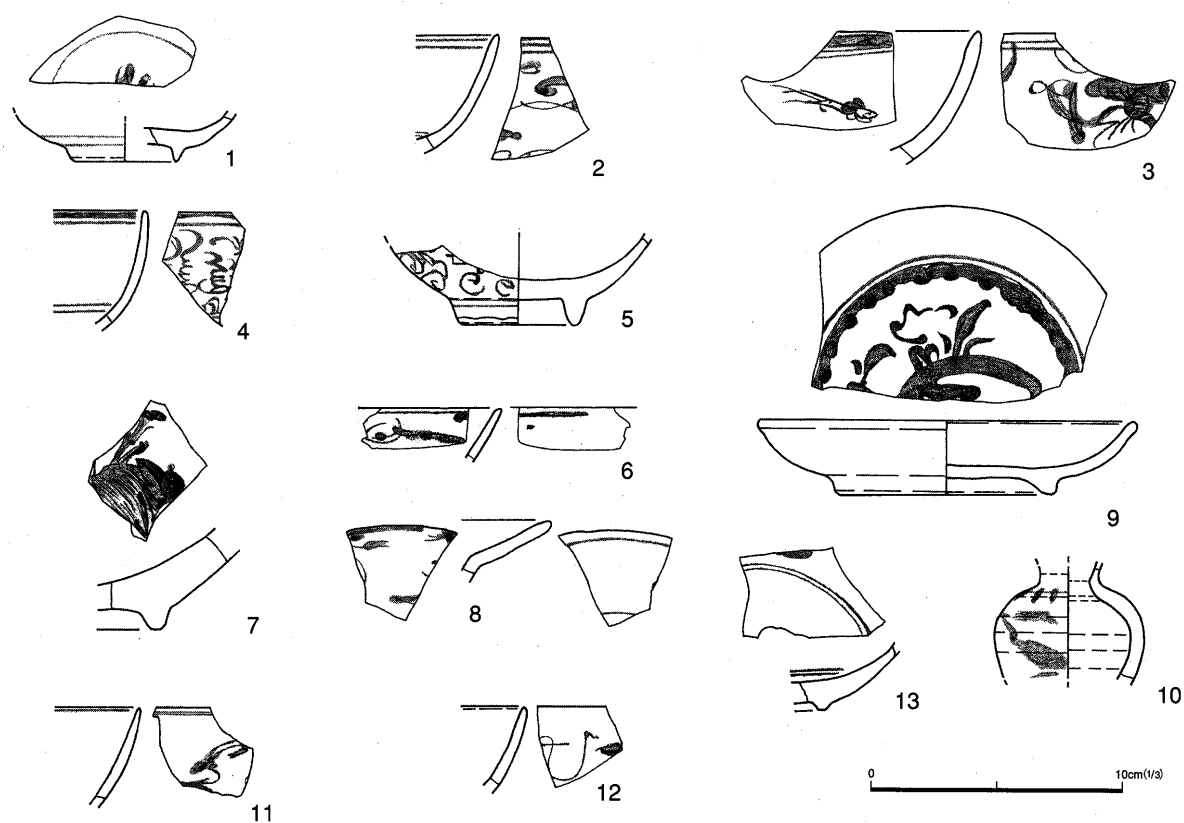
9は福建・広東窯系の青花皿の底部破片である。型作りで、胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青色をおび、呉須の発色は暗い。ピンホールがみられる。18世紀代の製品であろう。

10は福建・広東窯系の青花瓶の胴部破片である。胎土は浅黄色から橙色で粗く、焼成はやや不良である。透明釉でやや黄色をおび、呉須の発色はよくない。17世紀前半代の製品であろう。

11は日本・肥前の染付碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は暗めの薄青色をおび、呉須の発色は良好である。外面に貫入がみられる。17世紀後半の製品であろう。

12は肥前の染付碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好である。ピンホールがみられる。17世紀後半の製品であろう。

13は肥前の染付皿の底部破片である。文様は「日」の字鳳凰文か。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好。釉は部分的に褐色を、呉須は灰色をおびる。高台内にピンホールがみられる。17世紀中頃の製品かと思われる。



10



10

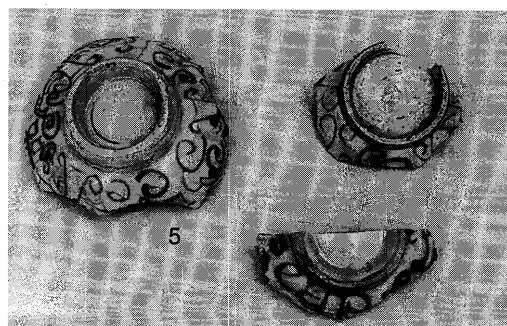


図9 カムチャウ (Cam Chau) 社地点表採遺物図・写真

f. 潮州会館 (Chua Am Bon) (図10・11)

チャンフー通りとホアンジュウ通りの交差点をさらに東にすすむと中国広東省潮州出身者でつくる潮州会館がある。別名チュア・アン・ボンで1845年の創建である。この会館の庭を1989年にハノイ総合大学（現、ハノイ国家大学）が4カ所にトレンチをいれ、調査をおこなった。その結果、明・清代の中国陶磁器や17世紀の肥前磁器などが出土した。出土した肥前磁器は、当初、中国、あるいはベトナム陶磁器として報告されたものである。この磁器群は、1990年に長谷部楽爾氏によって肥前磁器と確認された一群である。ベトナムで肥前磁器が出土することを確認した最初の事例であり、本稿では、その重要性をかんがえ、関係者の了解のもとここに報告するものである。

1は日本・肥前の染付見込み荒磯文碗である。外面に龍文がみられる。胎土は淡黄灰白色で精緻である。透明釉でやや薄青色で、呉須は灰のかかった暗い青色である。輪郭線はやや濃い、ダミは薄い。宝珠、灵芝、内面の魚文はかなり濃い。貫入は全面にみられる。

2は肥前の染付見込み荒磯文碗である。外面に龍文と鳳凰文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成はやや良好である。透明釉で暗めの薄青色をおびる。呉須はかなり暗い濃紺色である。畳付は釉剥され、付近に細かい砂粒が付着しているが、範囲も量も多くはない。貫入は多くみられる。

3は肥前の染付見込み荒磯文碗である。胎土は灰白色で精緻である。釉はやや薄青色、呉須の発色は明るい青色である。畳付は釉剥ぎし、付近に少量の砂粒が付着する。ピンホールも多少みられる。

4は肥前の染付見込み荒磯文鉢である。外面に龍文と鳳凰文がみられる。透明釉でやや青色をおびる。呉須の濃淡にムラがある。滲みが少ないが描き方は雑である。貫入は全体にみられる。畳付は釉剥ぎされ、付近に細砂粒が付着している。

5は肥前の染付「日」の字鳳凰文皿である。胎土は灰白色で精緻、焼成は普通である。透明釉で灰色をおびる。呉須は暗く、圏線はオリーブ色に近い発色である。見込み部分は貫入がみられ、気泡が釉下に多くみられる。外面にも大きな貫入がある。畳付は釉剥ぎし、付近に砂粒が付着する。

6は肥前の染付「日」の字鳳凰文皿である。胎土はにぶい黄橙色で精緻である。透明釉で灰色をおび、呉須の発色は暗くややオリーブ気味である。見込み部分に降灰痕が見られる。外面から高台内にかけてピンホールが多い。畳付には部分的に砂粒が付着している。

7は肥前の染付日の字鳳凰文皿である。見込みは蛇の目釉剥ぎであり、中央に「日」の字が描かれている。胎土は口縁部が灰白色で精緻である。焼成は良くない。釉は灰色の強い透明釉で、呉須も灰色が強く、輪郭線がしっかりしている。「日」の字の部分は色がやや濃い。高台外面には貫入とピンホールが多くみられ、内面には砂粒が付着するが生焼け状態である。

8は肥前の染付「日」の字鳳凰文皿である。胎土は淡黄色で精緻、焼成はムラがあり一部不良である。見込み部分の釉は青みがかった透明釉で灰白色をおびる。外面の釉はかなり黄味がかった灰白色である。呉須は滲んで暗く発色している。外面に若干のピンホールがみられる。

これら肥前磁器は、17世紀中頃から後半の製品であろう。

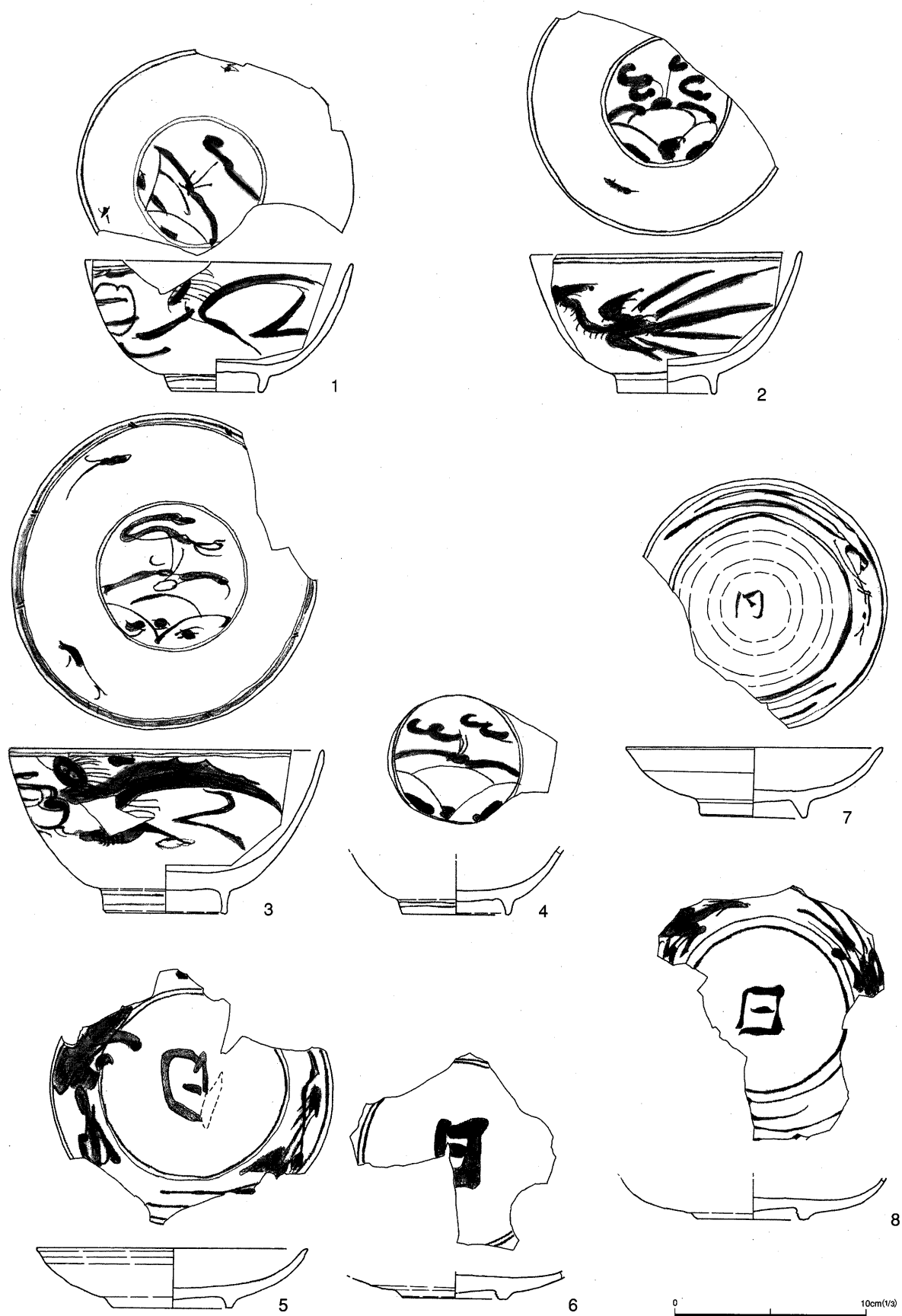


図10 潮州会館 (Chua Am Bon) 出土遺物図

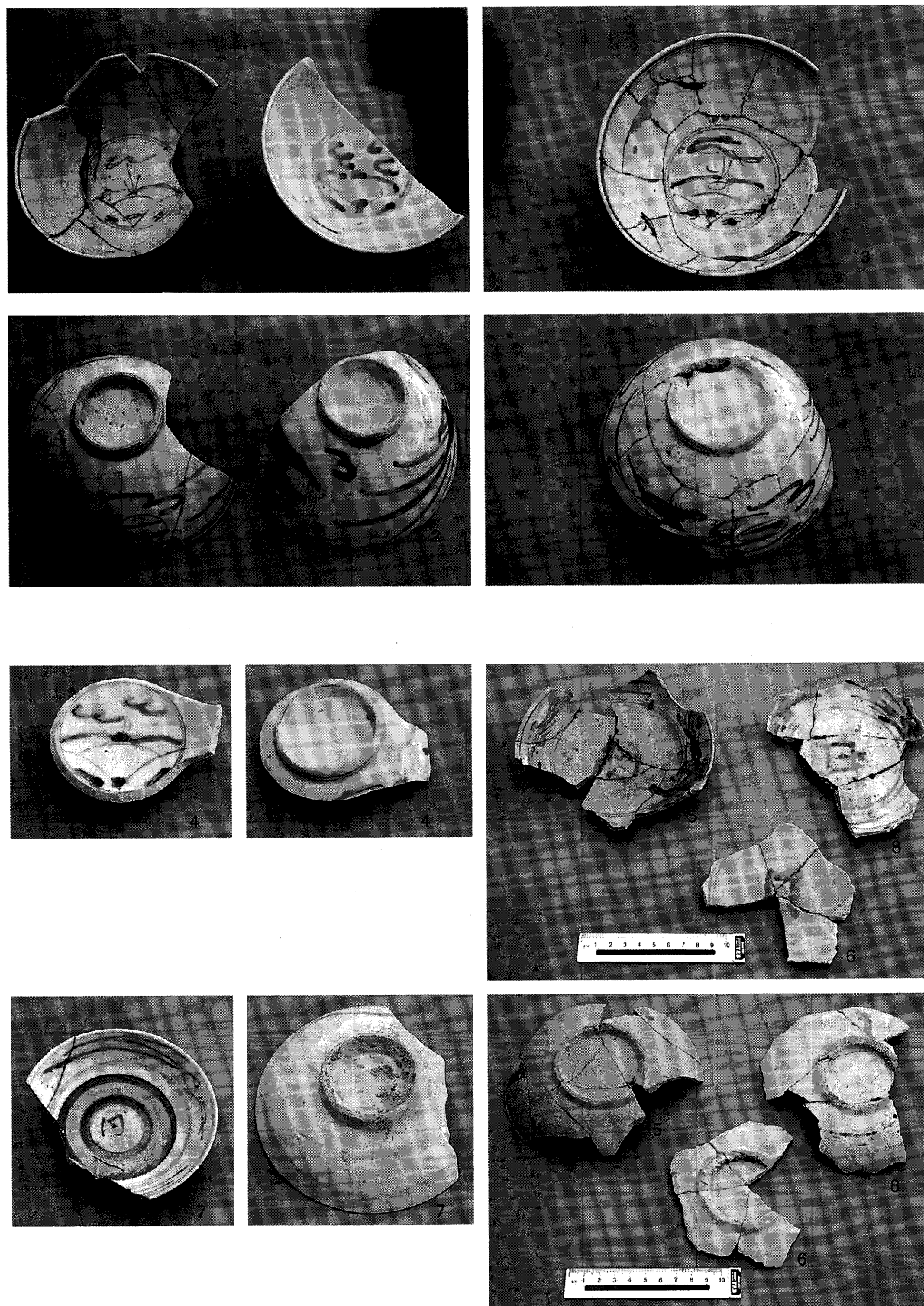


図11 潮州会館（Chua Am Bon）出土遺物写真

g. カムアン (Cam An) 社 (図12)

カムアン社は、トゥーボン川左岸の海岸沿い、旧ココ川の左岸一帯を占める。遺物の分布は少ないが、徳化窯の白磁合子が多く分布する。以下に表採した遺物を報告する。

1 は中国徳化窯の白磁合子の蓋であろう。胎土は白色、釉は白濁し内面は無釉である。

2 は中国福建・広東窯系の青花皿の破片である。胎土は灰白色で精緻である。透明釉で薄青色をおび、釉の発色は良好である。貫入が多くみられる。18世紀代の製品であろう。

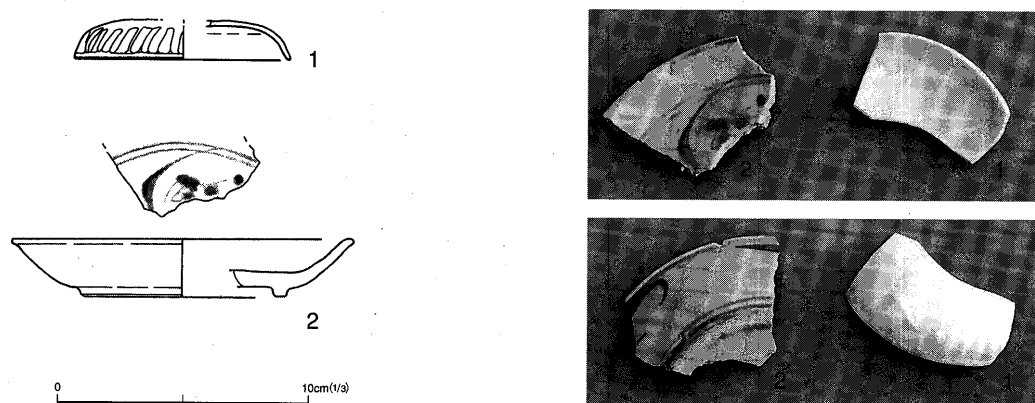


図12 カムアン (Cam An) 社表採遺物図・写真

h. ランバー (Lang Ba) 地点 (図13・14)

カムティン社第6地区に属する。海岸とホイアン旧市街地の間一帯である。以前にチャンパ彫刻遺物が出土している。この地区では1989年の発掘調査でレンガ造りの基礎をのこすチャンパ建築遺構が検出されている。墓地が多くあり、遺物も多く表採できる。徳化の白磁合子が多く分布する。以下に表採した遺物を報告する。

1 は中国龍泉窯系の青磁碗の口縁部破片である。胎土は灰色で精緻、焼成は良好である。釉はオリーブ灰色に近い緑色である。内面に沈線がみられる。14世紀から15世紀の製品である。

2 は龍泉窯系の青磁碗の口縁部破片で、連弁文の一部がみられる。胎土は薄灰色で精緻、焼成は良好である。釉はオリーブ灰色に近い灰色である。12世紀から13世紀の製品である。

3 は中国の白磁合子の身である。胎土は淡黄色、焼成は普通である。釉は白色をおびるが、全面には施釉されていない。12世紀から13世紀の製品かと思われる。

4 は中国の白磁合子の蓋である。胎土は褐色で、焼成は普通である。釉は白色をおびる。内面は薄く施釉される。12世紀から13世紀の製品かと思われる。

5 は中国景德鎮窯系の青白磁皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉はやや緑味がかかった薄青色である。12世紀から13世紀の製品である。

6 は景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は暗い。17世紀の製品である。

7 は景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は白色で精緻、焼成は極めて良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色はやや暗い。18世紀の製品である。

8 は中国福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土はやや黄味がかかった灰白色で、焼成は普通である。薄青色をおびた透明釉で、呉須の発色は薄い。見込みは蛇の目釉剥ぎで、高台付近には砂粒が付着する。18世

紀頃の製品である。

9は福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で、焼成は普通である。釉は薄青色をおび、呉須は暗く発色している。小さなピンホールがあり、貫入はみられない。18世紀から19世紀初頭の製品である。

10は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、ムラがある。呉須は暗く発色している。18世紀頃の製品である。

11は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は普通である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は良好である。ピンホールと貫入がみられる。18世紀から19世紀の製品である。

12は福建・広東窯系の青花鉢の口縁部破片である。胎土は暗灰黄色で、焼成は普通である。釉は暗めの薄青色をおび、呉須の発色は暗い。ピンホールがみられる。18世紀後半から19世紀前半の製品である。

13は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色と灰白色をおびており、やや白濁する。呉須の発色は暗い。見込みに蛇の目釉剥ぎがみられる。高台部にカンナ削り痕がみられる。17世紀末から18世紀の製品である。

14は福建・広東窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は極めて白に近い薄青色をおびる。呉須はややにじむが良好に発色している。18世紀頃の製品である。

15は福建・広東窯系の印青花碗の底部破片である。胎土は黄味のある灰白色でやや粗い。焼成は不良である。釉はほぼ灰色に近く、呉須はオリーブ色に近い黒である。外面の呉須はややにじむものの、青く発色している。高台内にピンホールが多くみられる。17世紀末から18世紀の製品である。

16は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は浅黄色で粗く、焼成は不良である。釉は白濁しており、呉須の発色は良くない。ピンホールが多く、極めて細かな貫入がみられる。18世紀から19世紀初頭の製品である。

17は中国徳化窯の青花碗の口縁部破片である。胎土はやや黄味のある灰白色で、焼成は普通である。釉は内面が白色を、外面は薄青色をおびる。呉須はやや薄い、発色は良好である。18世紀頃の製品である。

18は徳化窯の青花碗の底部破片かと思われる。型抜き技法で作られており、口ハゲがみられる。胎土は灰白色で精緻である。釉は白色に極めて近い薄青色をおび、呉須の発色は薄い。18世紀の製品である。

19は景德鎮窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須の発色は明るい。高台内にカンナ削り痕がみられる。17世紀後半から18世紀初頭の製品である。

20は福建・広東窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色をおび、呉須は明るく発色している。18世紀頃の製品である。

21は福建・広東窯系の青花皿の口縁部破片である。胎土は灰色に近い白色、焼成は普通である。透明釉で灰色をおび、貫入がみられる。呉須は内面の口縁下に塗られているものの、かなり流れており不鮮明である。灰色に発色している。18世紀後半から19世紀前半頃の製品である。

22は景德鎮窯系の青花合子の身である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で白色をおびる。呉須の発色は良好である。18世紀の製品である。

23は景德鎮窯系の青花蓋物の身であると思われる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉溜まりの部分の釉はやや青色が強く、胴部は薄い青色である。呉須はややにじむが明るく発色している。内面にカンナ削り痕がみられる。18世紀後半から19世紀前半の製品である。

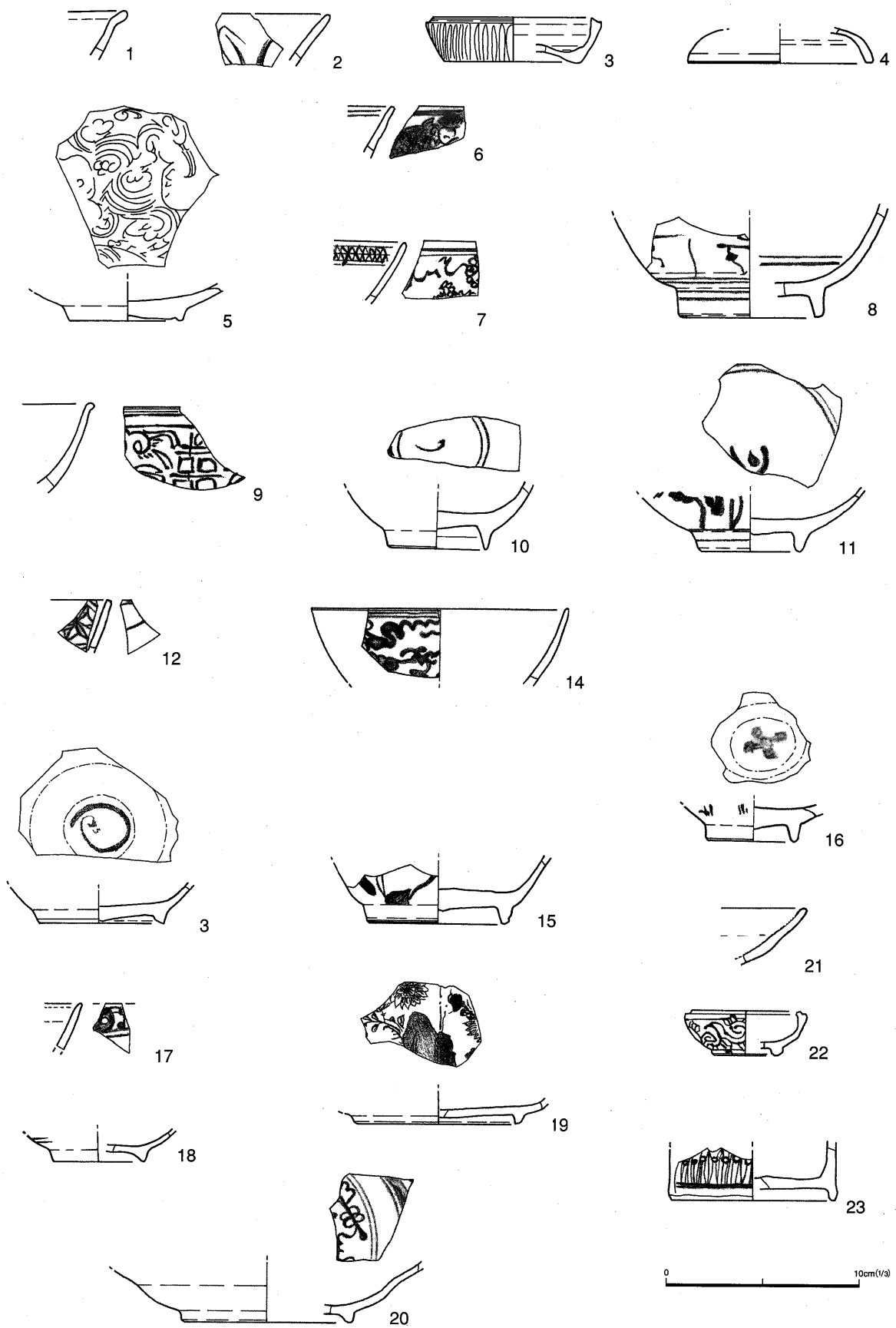


図13 ランバー (Lang Ba) 地点表採遺物図

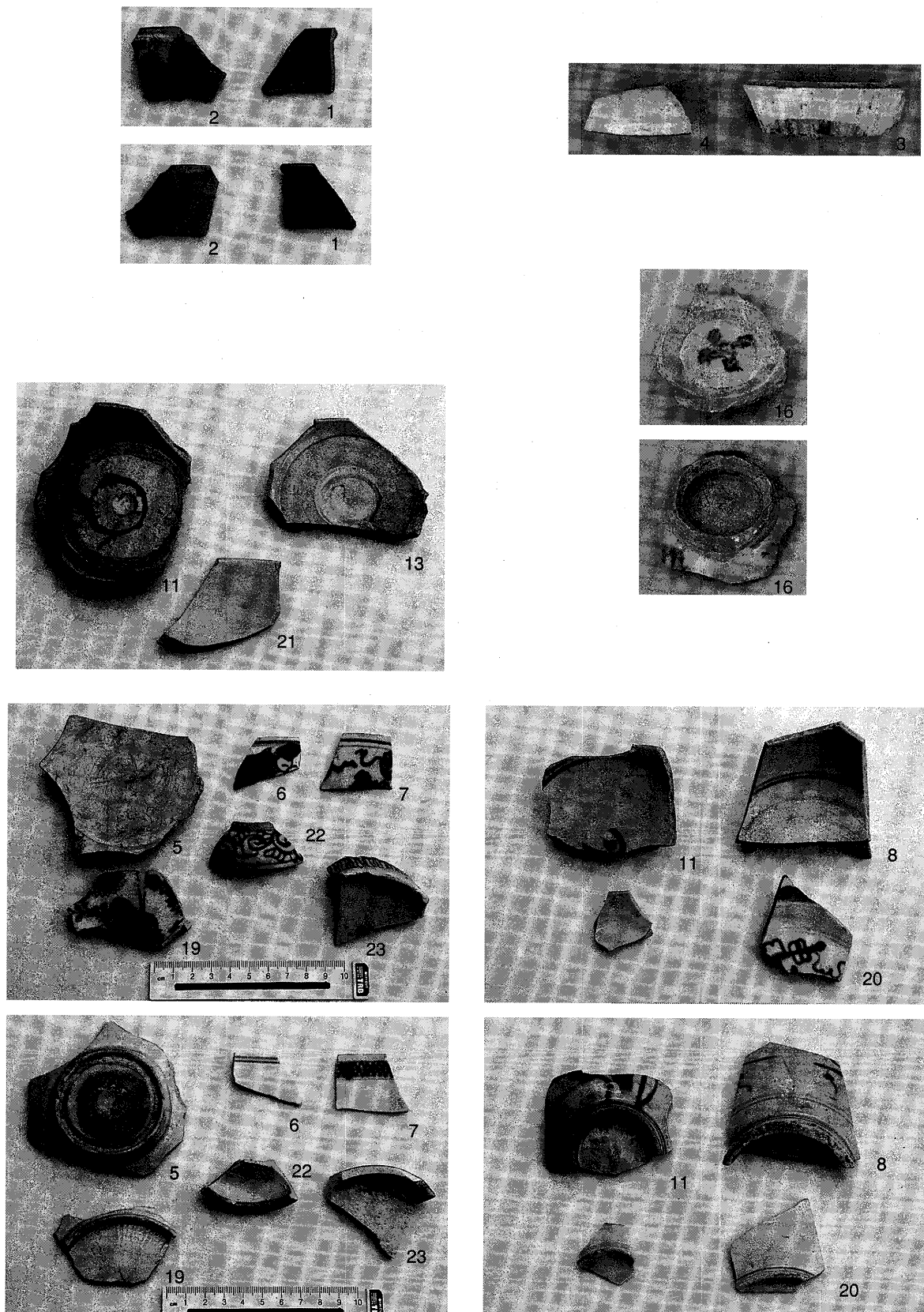


図14 ランバー (Lang Ba) 地点表採遺物写真

Ⅰ. ソンフォン (Son Phong) 地点 (図15・16)

ホイアン旧市街地の北側の墓地。18世紀代以降の遺物が多く分布する。以下に表採した遺物を報告する。

1は中国景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、釉は白色に近い薄青色で、呉須の発色は明るい。口唇部に虫食いが多くみられる。17世紀後半から18世紀前半の製品である。

2は景德鎮窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は暗めの薄青色で、呉須は明るく発色するが、滲んでいる。18世紀代の製品であろう。

3は景德鎮窯系の青花褐釉掛分碗の胴部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。外面には褐釉が施され、内面は薄青色の透明釉で、呉須の発色は明るい。17世紀後半から18世紀前半の製品であろう。

4は中国福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は褐色をおびた灰白色で、若干の空隙がある。釉は薄青色の透明釉でムラがみられる。呉須は群青色に近い発色である。ピンホールが少しみられる。18世紀代の製品であろう。

5は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は褐色をおびた灰白色で、若干の空隙がみられる。釉は薄青色の透明釉でムラがある。呉須の発色はよくない。見込みは蛇の目釉剥ぎで、釉剥部に重ね焼きの痕跡がみられる。高台内は無釉である。17世紀末から18世紀代の製品であろう。

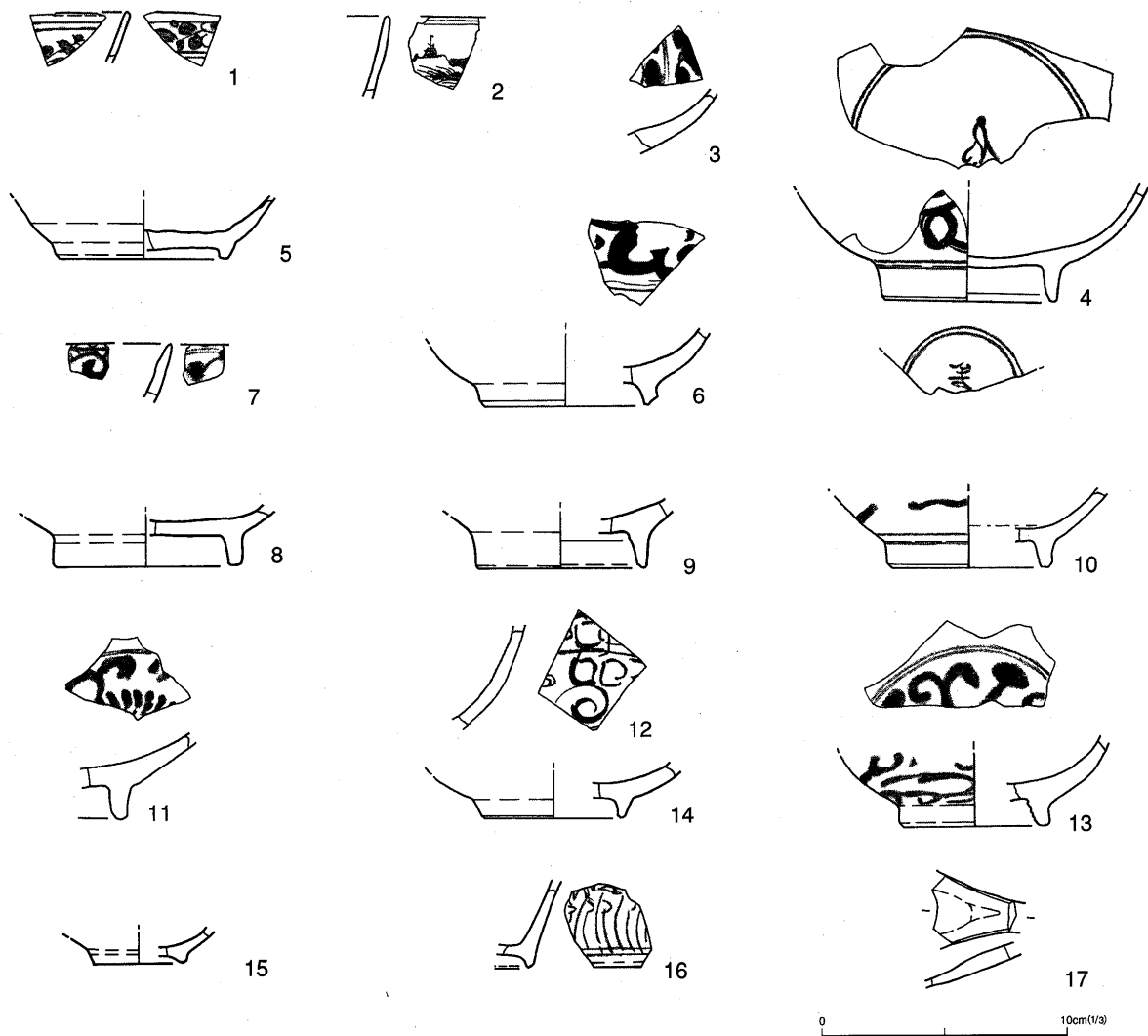


図15 ソンフォン (Son Phong) 地点表採遺物図

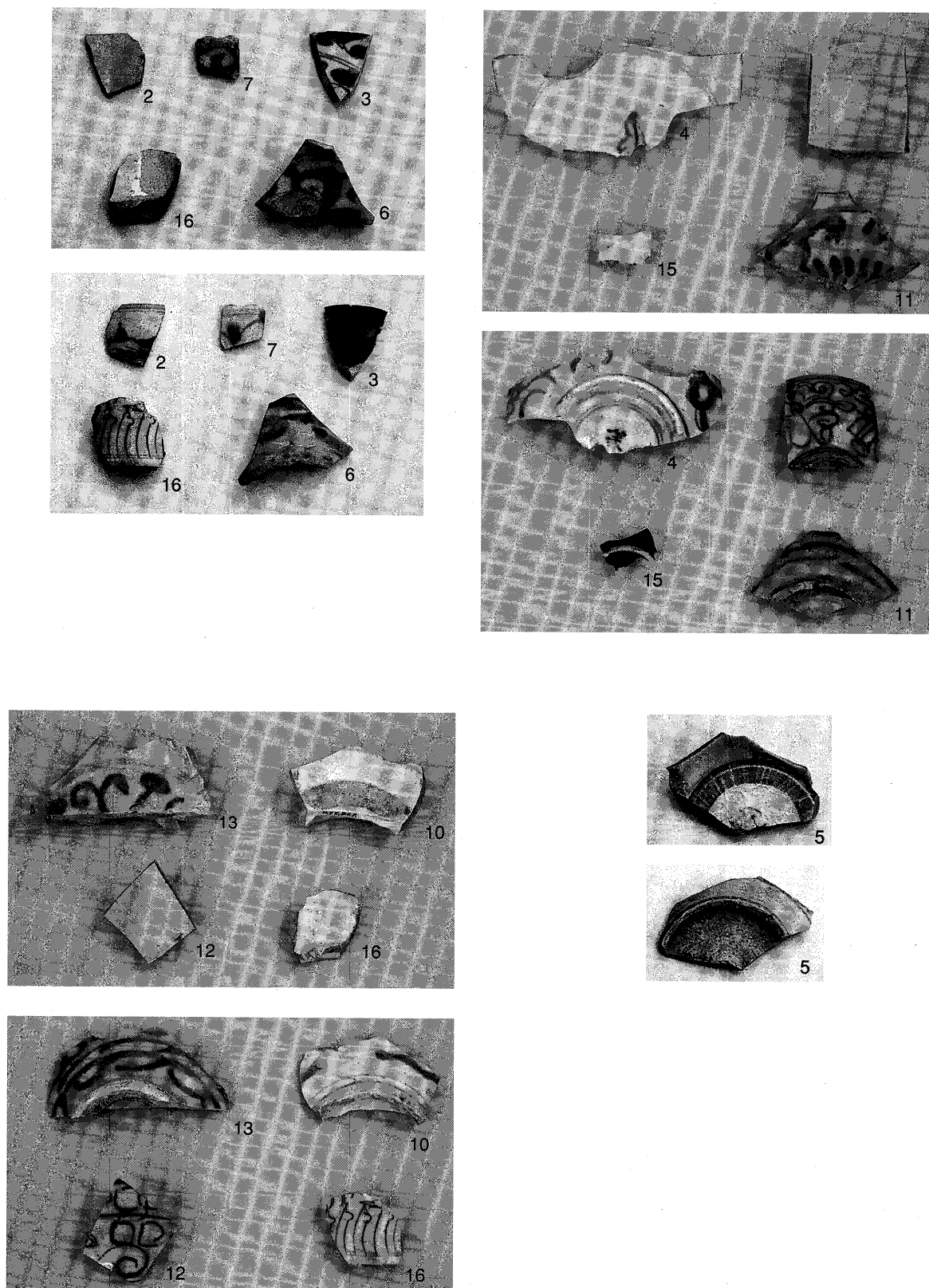


図16 ソンフォン (Son Phong) 地点表採遺物写真

6は福建・広東窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好である。呉須がかなり滲んでいる。17世紀前半の製品であろう。

7は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色である。釉はやや青色が強く、呉須の発色は良いが滲んでいる。高台部に砂粒が付着している。17世紀後半から18世紀前半代の製品であろう。

8は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色である。釉は灰色に近い薄青色の透明釉で、呉須は滲むが明るく発色している。ピンホールが少しみられる。18世紀代の製品である。

9は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰色に近い薄青色の透明釉で、呉須の発色は明るい滲んでいる。18世紀代の製品であろう。

10は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。釉は白色に近い薄青色の透明釉で、呉須の発色は薄く滲む。見込みは蛇の目釉剥ぎである。18世紀代の製品である。

11は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。釉は外面と高台内が薄青色で、内面は灰色の透明釉である。呉須の発色は暗く、オリーブ色に近い。18世紀後半から19世紀前半の製品であろう。

12は福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の胴部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰色に近い薄青色の透明釉で、呉須は濃藍色に近い青色に発色している。18世紀後半から19世紀前半の製品であろう。

13は中国産と思われる青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色の透明釉である。呉須は明るく発色するが、薄く滲んでいる。高台畳付に砂粒が付着している。17世紀後半から18世紀代の製品であろう。

14は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色である。釉は明るい薄青色の透明釉で、呉須の発色も明るい滲んでいる。高台内に砂粒の付着痕がみられる。18世紀から19世紀前半の製品であろう。

15は中国徳化窯の小碗、もしくは小坏の底部破片と思われる。胎土は灰白色で精緻、型作りである。外面は褐釉で、内面は白色の透明釉である。畳付には細砂粒が付着している。18世紀代の製品であろう。

16は景德鎮窯系の袋物の底部破片と思われる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色の透明釉で、呉須の発色も良好である。内面にピンホールがみられる。18世紀から19世紀前半の製品であろう。

17は福建・広東窯系の白磁の散蓮華である。胎土は灰白色で、釉は白色である。18世紀から19世紀前半の製品であろう。

(2) トゥーボン川右岸

トゥーボン川左岸のホイアン旧市街地から船で右岸にわたり、海岸から国道1号線までの広範囲で踏査を行った。トゥーボン川右岸では、コンチャム地点、ズイフック地点、ノイザン地点、チュンフォン地点、清涼寺の各地点で遺物が分布していた。特に、ノイザン地点とチュンフォン地点では肥前染付が多く分布していた。

j. コンチャム (Con Cham) 地点 (図1-④, 図17)

トゥーボン川右岸のズイスエン県に属する。1989年に発掘調査され、チャンパ土器などが出土している。以下に表採した遺物を報告する。

1はベトナム焼締長胴瓶の頸部破片である。肩部に1本の沈線がある。内面はヨコナデ調整で、外面に自然釉がみとめられる。色調は外面が灰褐色、内面は灰白色である。

2はベトナム中部の焼締四耳壺の口縁部から肩部にかけての破片である。口縁部に2本の深い沈線があり、肩部に4本の浅く細い沈線と4本単位の波状文がある。胎土は精緻で灰赤色である。焼成は良好である。色調は、外面が灰褐色で、内面は灰赤色である。

3は中国福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の底部破片である。見込みには文様が描かれるが滲んでいて判然としない。「日」の字か。胎土は淡黄色で、焼成は不良である。透明釉で、呉須は暗オリーブ色に発色している。見込みは蛇の目釉剥ぎである。高台内は無釉である。18世紀代の製品であろう。

4は中国漳州窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。透明釉で薄青色をおびる。

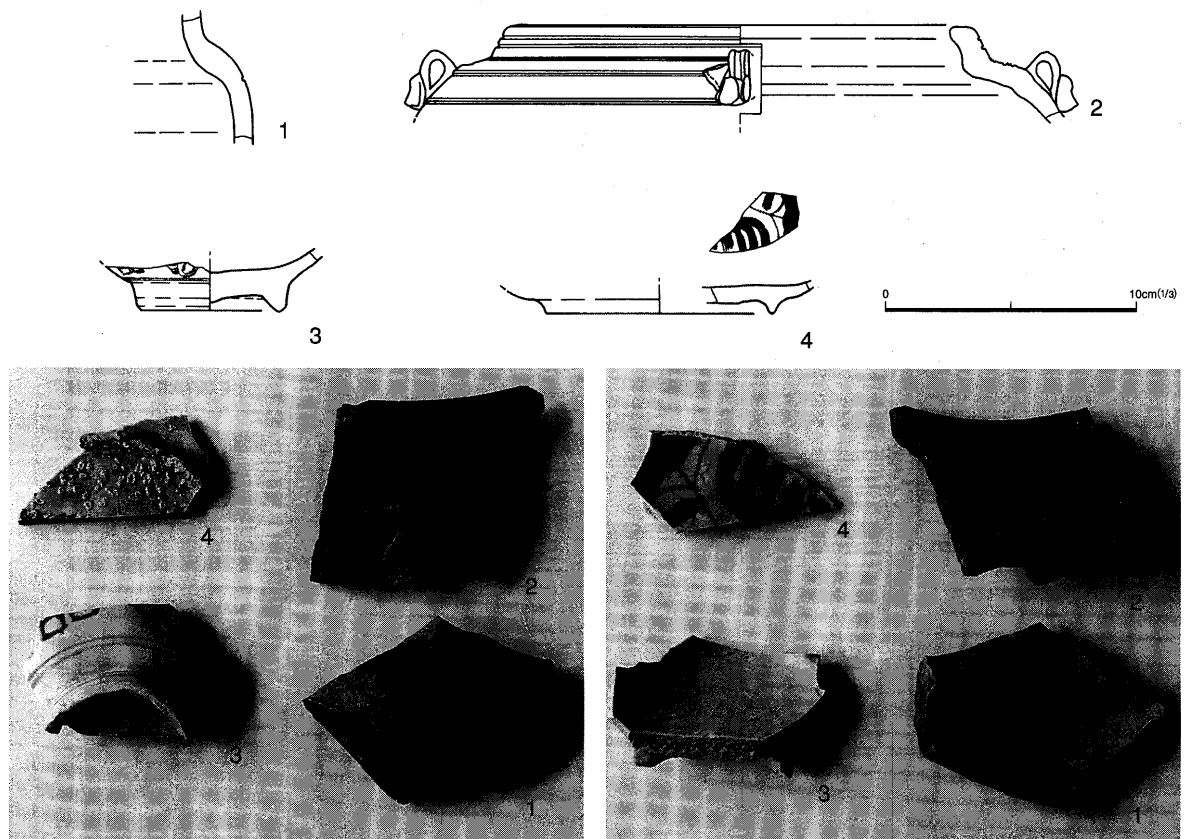


図17 コンチャム (Con Cham) 地点表採遺物図・写真

k. ズイフック (Duy Phuoc) 地点 (図18)

トゥーボン川右岸、ホイアン旧市街地の対岸から国道1号線までの内陸側一帯で若干の遺物の分布が見られた。18世紀以降の比較的新しい遺物がほとんどであった。以下に表採した遺物を報告する。

1は中国福建・広東窯系の青花碗である。胎土は白色で精緻、焼成は不良である。透明釉で薄青色をおびる。呉須の発色はやや白濁するが良好である。ピンホールがみられる。18世紀代の製品であろう。

2は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好である。釉は灰白色で、呉須はくすむ。見込みは蛇の目釉剥ぎで、別製品の高台部と砂粒が微量に付着している。18世紀代の製品であろう。

3は中国漳州窯系の青花折縁皿の底部破片である。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰白色で、呉須の発色は暗い。高台外面から内面にかけて砂粒が付着している。16世紀後半から17世紀前半の製品である。

4は福建・広東窯系の青花大皿の胴部破片である。胎土は灰白色で、焼成は良好である。釉は薄青色の透明釉で、呉須は暗く発色し、少し滲む。18世紀代の製品であろう。

ほかに、ズイフックでは、中国漳州窯系の青花皿 (16世紀末～17世紀前半)、福建・広東窯系青花碗 (18世紀代)、中国景德镇窯系青花碗 (17世紀代) などが採集されている。

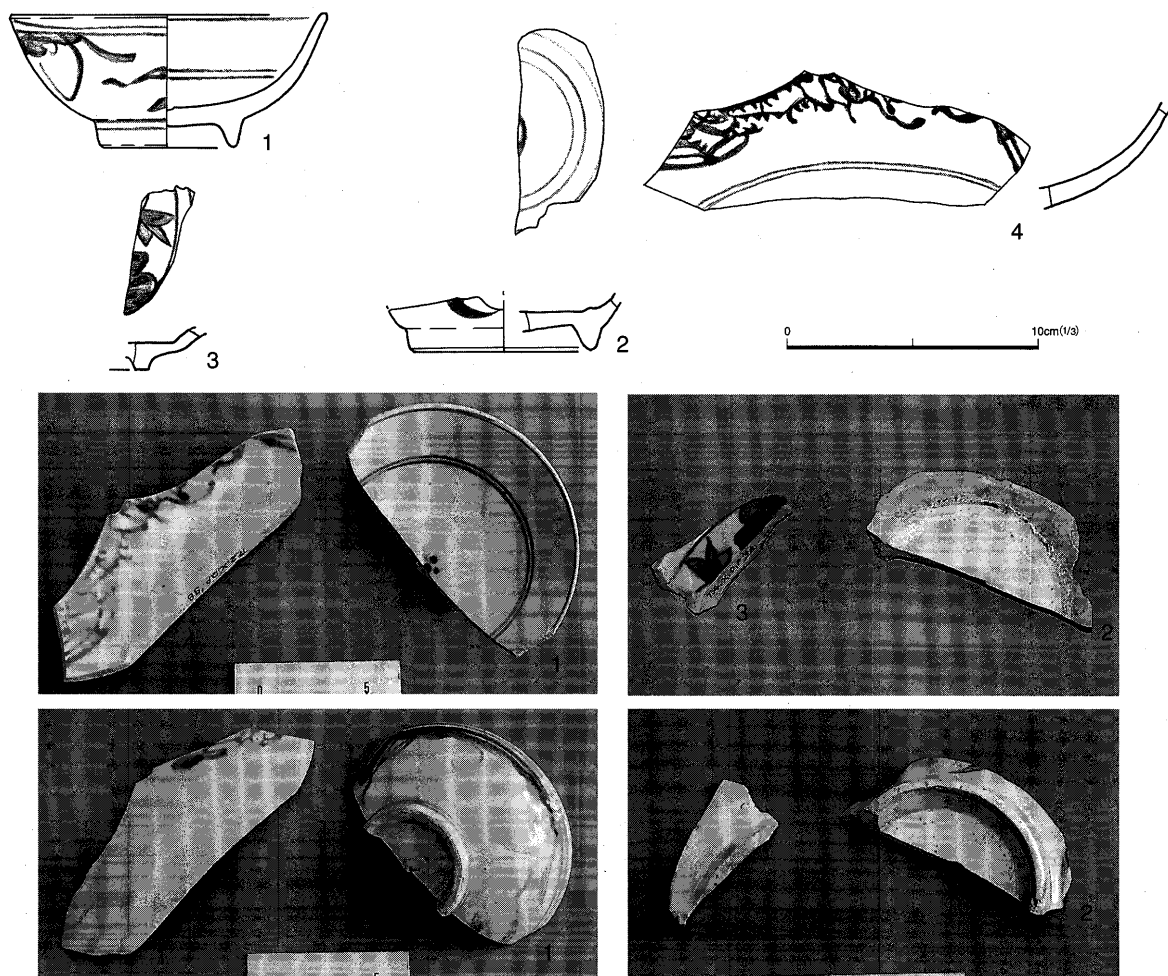


図18 ズイフック (Duy Phuoc) 地点表採遺物図・写真

1. ノイザン (Noi Rang) 地点 (図1-③, 図19~22)

トゥーボン川右岸、ホイアン旧市街地の対岸から海岸寄り一帯の広範囲で多くの遺物が分布しているのを確認した。16世紀末から現代までの陶磁器が中心で、肥前磁器も多くみられた。ノイザンでは5地点において遺物採集したが、各地点の境界を明確にわけることができなかったため、以下では各地点で採集した遺物をまとめて報告することにした。

1はベトナムの焼締壺である。全体にヨコナデ調整で、外面に自然釉がみられる。胎土は赤灰色で白色砂粒、赤色粒子を多く含む。焼成は良好である。色調は外面が灰褐色で、内面は赤灰色である。

2はベトナムの焼締四耳壺の小破片である。胴部上半に3本の凸帯とその間に、上から5本単位の波状文、3本単位の波状文、そして単位は不明だが、その下に波状文がみられる。胎土は暗赤灰色で、小砂粒を含むが精緻である。焼成は良好である。色調は内外面ともに灰褐色である。

3はベトナム中部の焼締小形四耳壺である。全体にヨコナデ調整で、口縁下に列点文、4本の沈線がみられる。底部には回転糸切り痕がある。内面にはロクロ目が残る。胎土は黄橙色で精緻である。焼成は良好である。色調は、外面の口縁部が灰白色、それ以外は赤褐色、内面は灰白色である。

4はベトナムの広口壺の口縁部である。胎土は浅黄橙色で精緻である。焼成は普通である。色調は内外面ともに鈍い橙色である。

5はベトナム中部の線条文鉢の口縁から胴部破片である。内面に黄色の自然釉がみられる。胎土は灰赤色で、白色砂粒を多く含む。焼成は良好である。色調は外面が暗赤灰色で、内面は灰白色である。

6は中国の焼締小型瓶の底部破片である。内面の底部付近にしほり痕と指頭痕が残る。底部は無調整である。胎土は灰赤色で精緻である。焼成は良好である。色調は外面が暗赤褐色で、内面は灰白色である。おそらく日本では「綜」とよばれている小型の焼締瓶と思われる。以前はベトナム産と考えられていたが、中国南部において窯跡が発見され、現在は中国産とされる。

7は中国景德鎮窯系の青花碗である。高台内に銘があるが不明、また二重の圈線がみられる。胎土は灰白色で精緻である。焼成は良好である。釉調は、薄青色の透明釉で、呉須の発色も良い。

8は景德鎮窯系の青花碗である。胎土は灰白色で精緻である。焼成は良好である。釉調は、薄青色の透明釉で、呉須は鮮明に発色している。高台破片内に「明成」「年製」の銘があることから、おそらく「大明成化年製」と思われる。二重の圈線がみられ、高台内に一部無釉のところがある。17世紀前半代の製品であろう。

9は中国福建・広東窯系の青花碗である。見込みに花唐草文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は暗発色である。全体に浅い貫入があり、高台内にピンホール、二重圈線、銘がある。17世紀後半から18世紀前半の製品であろう。

10は福建・広東窯系の青花碗である。見込みに銭形文がある。胎土は灰白色で普通である。焼成は、良好である。釉調は、透明で呉須はやや暗い。皿付から高台内に釉剥ぎがみられ、ロクロ目も残る。外面は体部と高台の境界に焼成不良による釉の亀裂、ピンホールがみえる。高台内には一重圈線があり、釉が部分的にかかる。16世紀末~17世紀前半の製品であろう。

11は福建・広東窯系の青花碗である。見込みに銭形文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は暗めの発色である。高台外面から高台内に釉剥ぎがみられる。高台内は明赤褐色に焼成発色している。16世紀末~17世紀前半の製品であろう。

12は福建・広東窯系の青花碗である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、発色は

良好である。呉須は暗く滲む。外面下方部にピンホールがみられる。内面にも浅くて小さいピンホールがみられる。17世紀末から18世紀代の製品であろう。

13は福建・広東窯系の端反り碗である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は圈線が滲む。外面に文字がみられる。17～18世紀の製品であろう。

14は福建・広東窯系の青花碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。17～18世紀の製品であろう。

15は福建・広東窯系の鉢である。見込みに花卉文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。高台内から畳付、高台内中心付近に大きめの砂粒が付着している。16世紀末から17世紀前半の製品であろう。

16は福建・広東窯系の青花碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須はやや滲む。高台内は明茶褐色に発色し、畳付に粗砂粒が付着している。17～18世紀代の製品であろう。

17は中国漳州窯系の青花碗の底部片である。見込みに跳魚文がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は滲む。高台内から畳付に砂粒が付着する。17世紀前半の製品であろう。

18は漳州窯系の青花折縁皿である。見込みに花鳥文を描く。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は暗灰色である。16世紀末～17世紀前半の製品であろう。

19は漳州窯系の青花折縁皿である。内面に窓内花文を描く。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は滲むが濃い青色である。16世紀末から17世紀前半の製品であろう。

20は漳州窯系の青磁折縁皿の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調はオリーブ灰色である。高台内に小石が付着している。17世紀代の製品であろう。

21は漳州系の青花皿である。見込みに花文が描かれている。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は暗く濃紺である。高台内は釉ムラがみとめられ、畳付に小石が付着している。16世紀末～17世紀前半の製品であろう。

22は福建・広東窯系の青花折縁大皿の破片である。胎土は黄橙色で精緻、焼成は普通である。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。17～18世紀代の製品であろう。

23は景德鎮窯系の青花小碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は発色が良い。高台内の銘は残部が僅かではあるが、「大明成化年製」であると思われる。17世紀代の製品であろう。

24は景德鎮窯系と思われる青花合子の身の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は発色が良い。釉剥ぎ部が赤褐色になっている。17～18世紀代の製品であろう。

25は福建・広東窯系と思われる青花瓶の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は暗灰色である。内面の無釉部にロクロ目がみられる。17～18世紀代の製品であろう。

26は日本・肥前の染付見込み荒磯文碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は鮮明に発色している。17世紀後半の製品であろう。

27は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は薄青色に発色している。高台畳付から内面に細砂粒が付着している。17世紀後半の製品であろう。

28は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。高台畳付に細砂粒が付着している。17世紀後半の製品であろう。

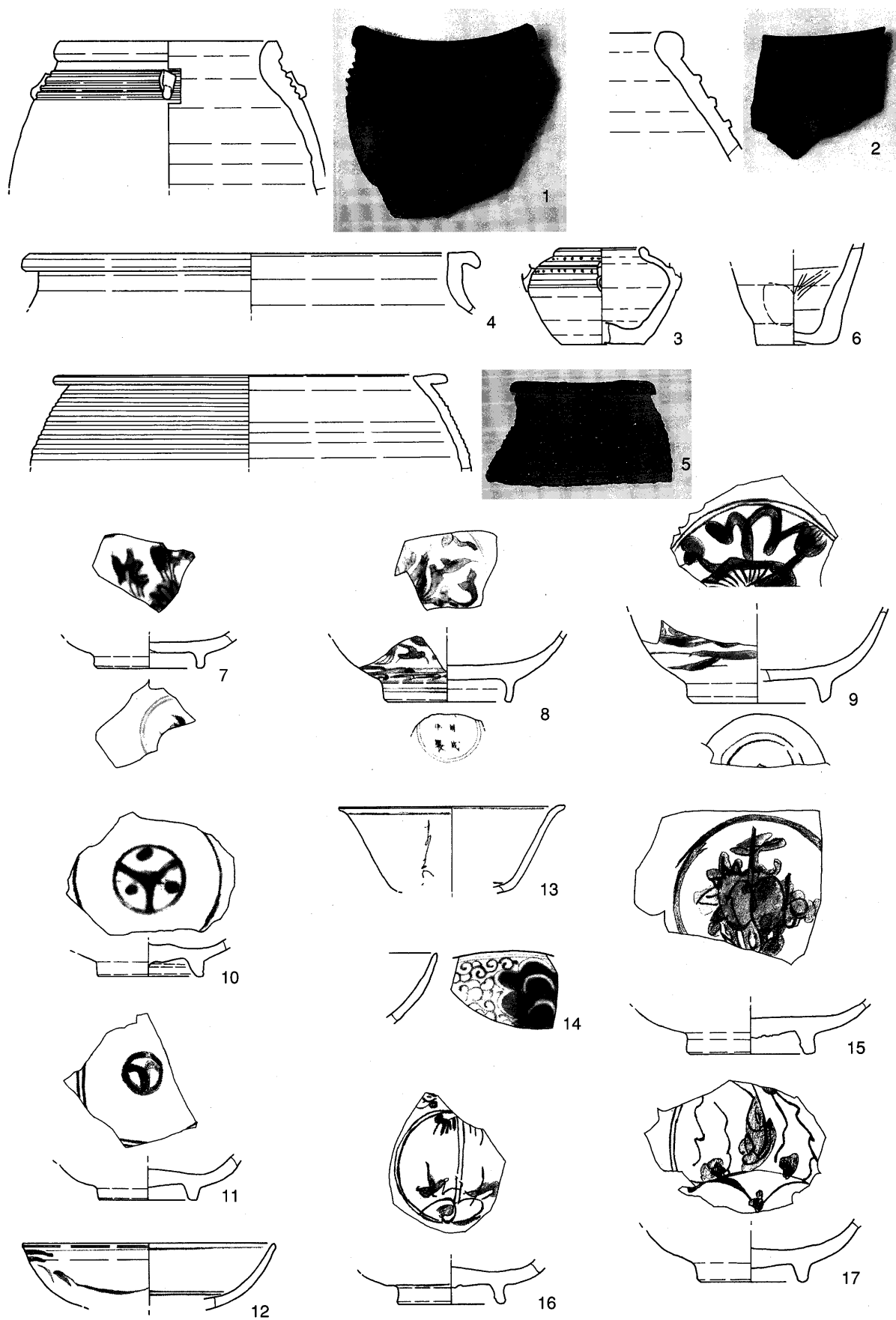


図19 ノイザン (Noi Rang) 地点表採遺物図

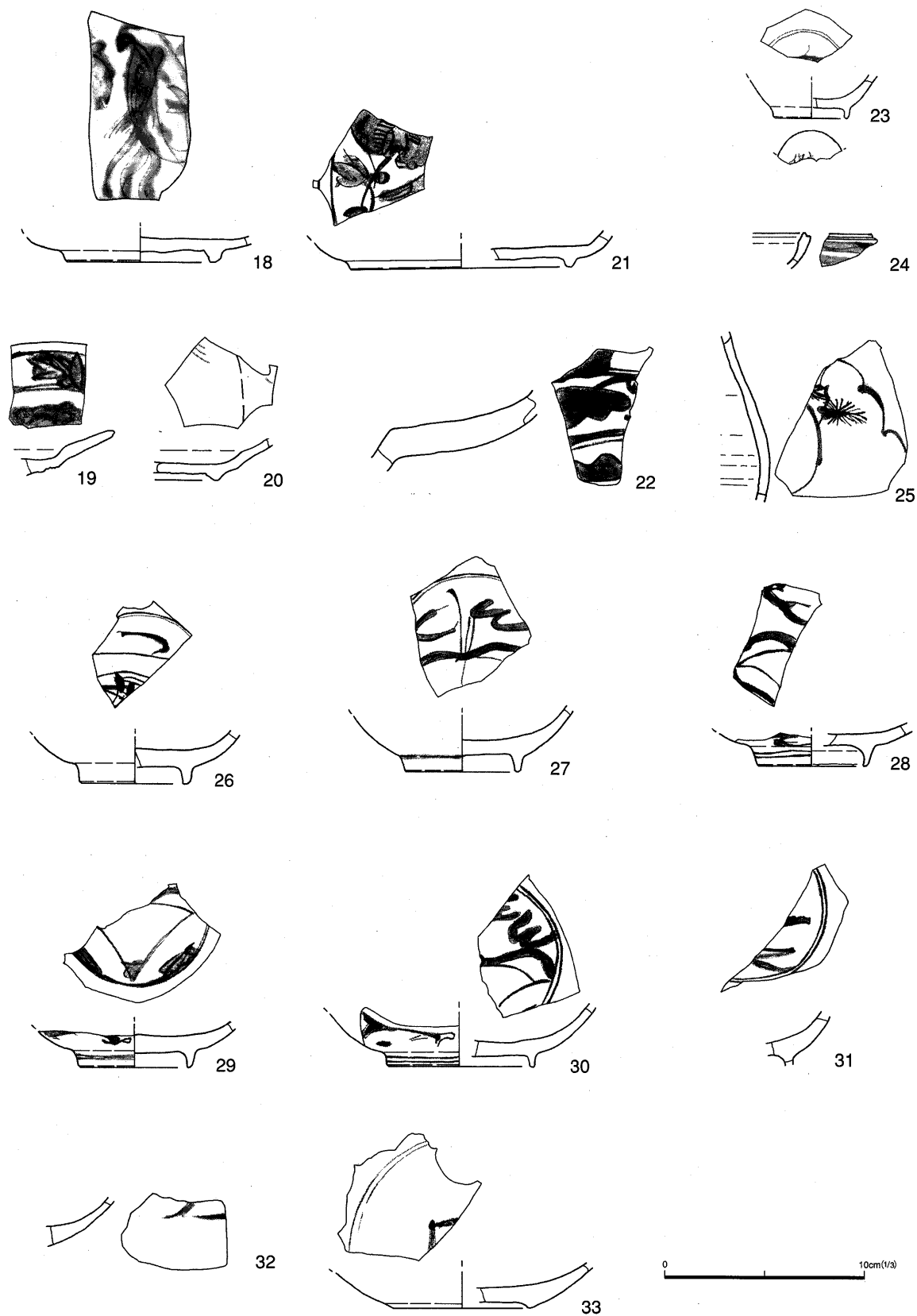


図20 ノイザン (Noi Rang) 地点表採遺物図

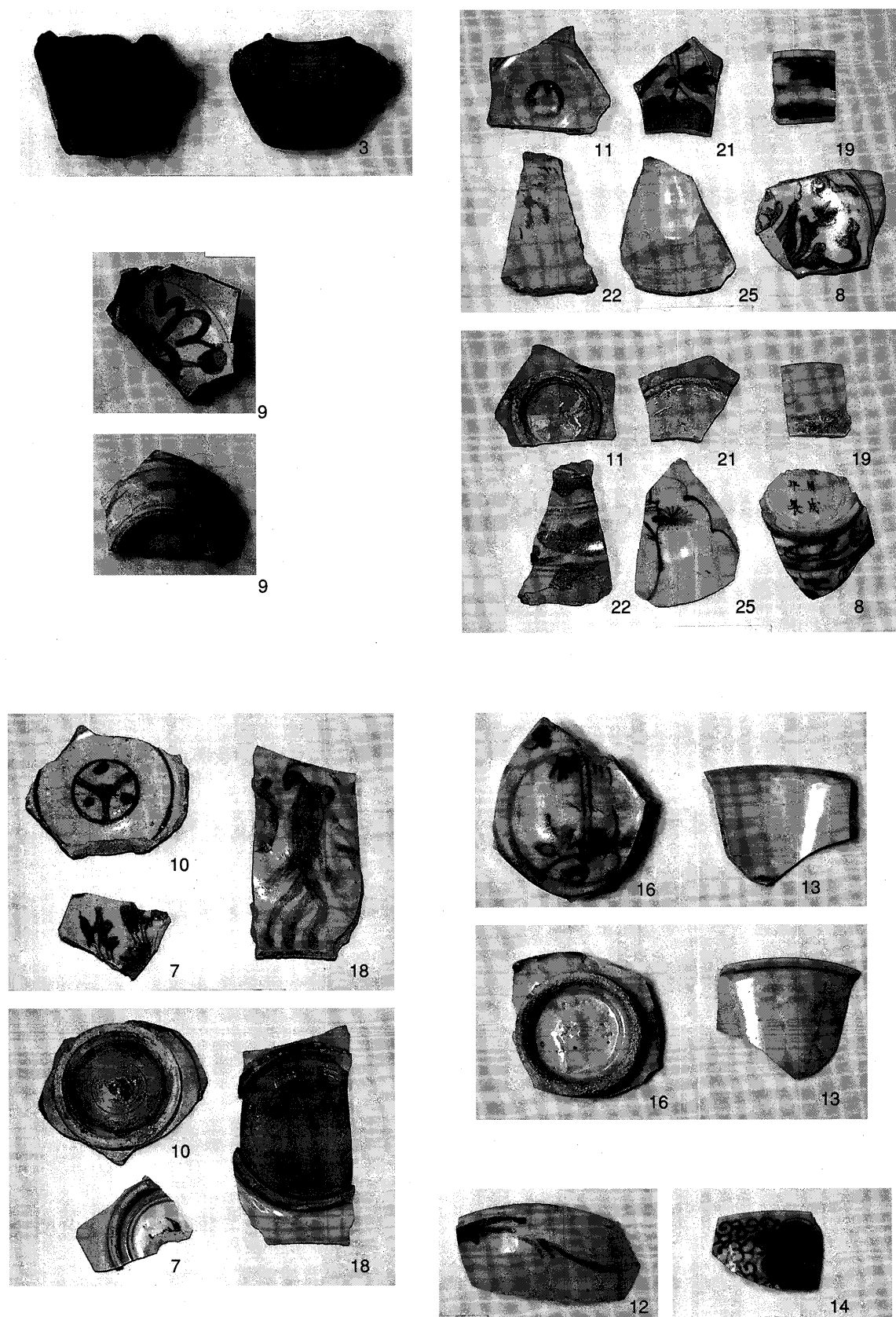


図21 ノイザン (Noi Rang) 地点表採遺物写真

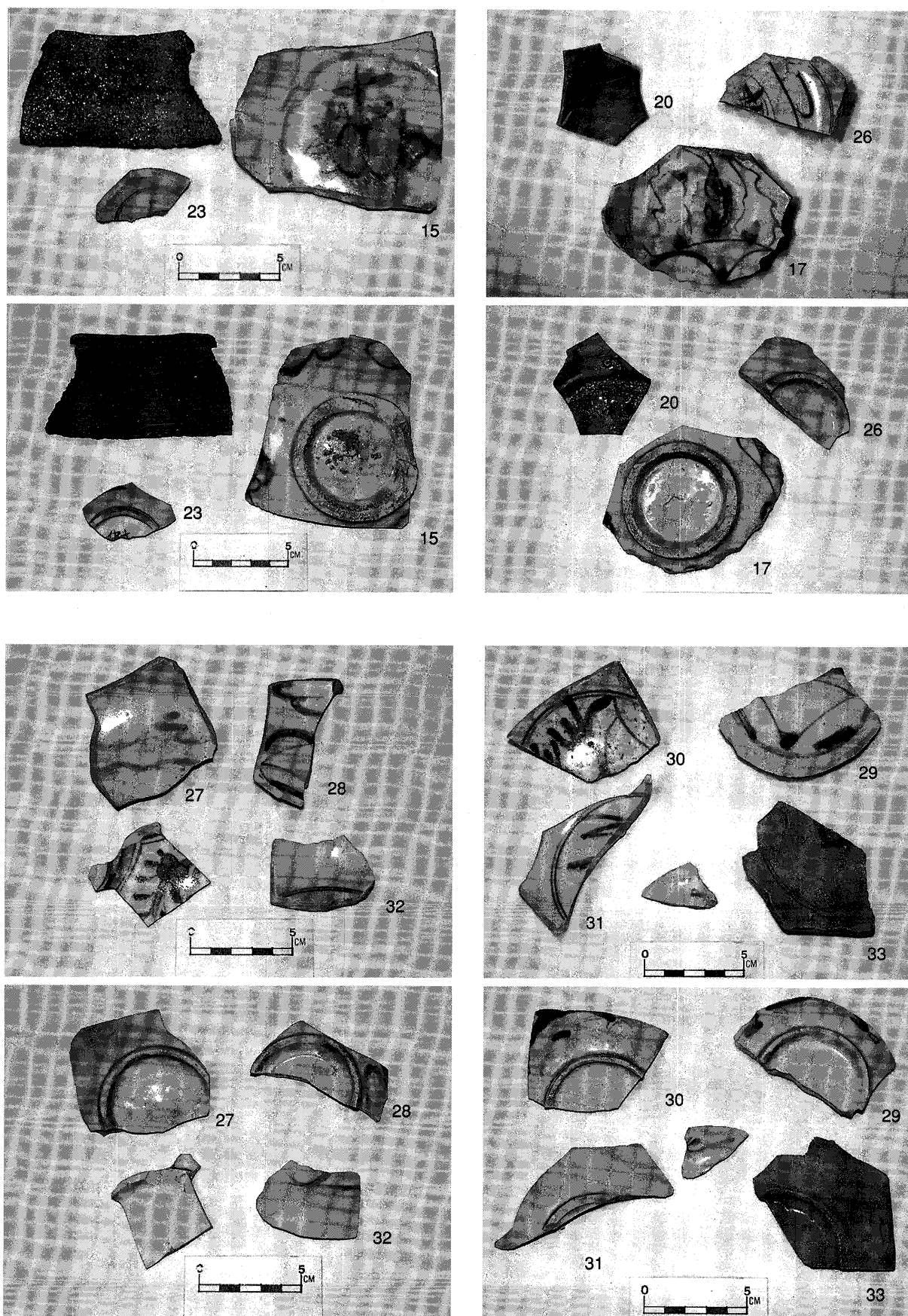


図22 ノイザン (Noi Rang) 地点表採遺物写真

29は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。見込みに部分的な貫入がある。17世紀後半の製品であろう。

30は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は鮮明である。貫入が全体にみられる。17世紀後半の製品であろう。

31は肥前の染付見込み荒磯文碗の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良い。17世紀後半の製品であろう。

32は肥前の染付見込み荒磯文碗の破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良い。釉調は薄青色の透明釉で、呉須は薄青色に発色している。17世紀後半の製品であろう。

33は肥前の染付「日」の字鳳凰文皿の底部片である。胎土は灰白色で、焼成は良い。釉調は透明で呉須は黒くぼやけている。高台内面に細砂粒が付着している。17世紀後半の製品であろう。

m. チュンフォン (Trung Phuong) 地点 (図1-②, 図23~26)

トゥーボン川右岸沿岸部の砂丘地帯に位置する。一帯にはラグーンが形成されている。広範囲で多くの遺物が分布しているのを確認した。16世紀末から現代までの陶磁器が中心で、肥前磁器も多く見られた。採集地点のGPS (全地球測位システム) データのひとつが北緯15度51分45秒、北緯108度23分33秒である。この地域は古井戸がのこり、一説にはチャンパ時代という考えがある。しかし、この説はなりたないことを菊池は『ベトナム日本町』(高志書店、2003年)のなかに述べておいた。その理由は、踏査した遺物の検討から、チャンパ時代にさかのぼる遺物(中国陶磁器やチャンパ陶磁器)を確認することができなかったことによる。以下に表採した遺物を報告する。

1はベトナム北部の焼締長胴瓶の頸部から肩部にかけての破片である。肩部には浅い3本の沈線があり、胴部にいわゆる“縄簾文”が施される。胎土は灰赤色で、焼成は良好である。色調は外面が黒褐色で、内面は灰赤色である。

2はベトナム中部の焼締長胴瓶の口縁部破片である。肩部に凸帯があり、その上に4本の櫛描波状文が施されている。胎土はにぶい黄橙色で精緻、焼成は良好である。外面の凸帯から1cmほど上で色調の変化がみられ、上部が灰白色で下部は灰赤色である。内面は灰白色である。

3はベトナム中部の焼締瓶の口縁から頸部破片である。肩部には3本の浅い沈線と3本単位の波状文が施されている。胎土は褐色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が黒褐色で、内面が灰黄褐色である。

4はベトナムの焼締壺の口縁部から胴部上半の破片である。口縁部に2本の浅い沈線があり、肩部の3本の浅い沈線の下に5~6本単位の櫛描波状文と凸帯が施されている。胎土はにぶい赤褐色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が暗赤褐色で、内面がにぶい赤褐色である。

5はベトナム中部の焼締壺の口縁部破片である。口縁部に2本の沈線があり、肩部から胴部に凸帯と4本単位の波状文が施されている。

6はベトナム中部の鉢の口縁部から胴部破片である。胴部には浅い線条文がみられる。胎土は小砂粒を多く含む赤褐色で、焼成は普通である。色調は外面、内面ともに赤褐色である。

7はベトナム中部の焼締大型鉢の口縁部から胴部破片である。口縁部には溶着痕がみられる。胎土は明褐灰色で精緻、焼成は良好である。色調は外面が赤灰色で、内面は明褐灰色である。

8はベトナム中部の焼締浅鉢、あるいは蓋の破片である。胎土は若干の赤褐色粒子を含む灰褐色で精緻、焼

成は良好である。色調は外面、内面ともに灰褐色である。

9はベトナム中部の山形の蓋の破片である。胎土は白色粒子を多く含む灰色で、焼成は良好である。色調は外面、内面ともに暗赤褐色である。

10はベトナム中部の山形の蓋の破片である。つまみ部分には指頭痕がかすかに残っている。胎土は白色粒子を多く含む灰赤色で、焼成は良好である。色調は灰赤色である。

11はベトナム中部の蓋、あるいは高坏形の破片である。胴部には波状文がみられる。胎土は若干砂粒を含むにぶい橙色で精緻、焼成は普通である。色調は外面がにぶい橙色で、内面もにぶい橙色であるが、一部にぶい赤褐色の部分がある。

12はベトナム北部の碗の底部破片である。見込み中央には印花文が施文され、蛇の目状に釉剥が施されている。外面は胴部中程まで白化粧が施されている。高台内は施釉されている。

13はベトナム北部の青花皿の底部破片である。見込みには花文が描かれている。胎土は褐色気味の灰色でやや粗く、焼成は不良である。白濁した釉で、呉須の発色は暗く、呉須の部分がやや凹んでいる。高台内にロクロ目がみられ、高台の内面にも工具による沈線がみられる。貫入が大きくて深く、ピンホールが多い。

14は中国景德鎮窯系の青花鉢の底部破片である。胎土は灰色で精緻、焼成は良好。薄青色の透明釉である。呉須の発色は濃く、良好である。18世紀以降の製品と思われる。

15は中国福建・広東窯系と思われる青花碗の底部破片である。胎土は黄色味がかった灰白色でやや精緻、焼成は普通である。緑色がかった透明釉で、外面下方部から高台内にかけて無釉である。見込みに蛇の目釉剥ぎがあり、貫入が全体に及んでいる。

16は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。やや青みの強い透明釉である。呉須の発色は薄い。高台付近にピンホールが集中している。18世紀前半の製品と思われる。

17は中国の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。やや白濁色気味の釉で薄青色をおびている。呉須の発色はややぼやけている。高台内に「白水」の陽刻があり、ロクロ目が残る。比較的新しい時期の製品と思われる。

18は景德鎮窯系と思われる青花碗または鉢である。見込みには花文と思われる文様があり、高台内には銘が入る。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉である。呉須の発色は良い。

19は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。見込みに「魁」の文字がみられる。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉である。呉須は空色で発色が薄い。

20は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。文様は、高台内に圈線があり、見込みには花と唐草、二条圈線がみられる。胎土は灰白色で精緻である。薄青色の透明釉である。呉須の発色は、見込みの部分は暗く、外面は薄めである。高台内にピンホールがみられる。

21は景德鎮窯系の青花皿の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉で、呉須の発色は良好である。

22は中国漳州窯系の青花碗の底部破片である。見込みに銭形文の崩れた文様がみられる。胎土はやや灰色の強い灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉で、呉須は灰色がかっているが発色は良好である。

23は景德鎮窯系の青花「寿」字鳳凰碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉で、呉須の発色は良好である。高台内にピンホールと銘がみられる。

24は福建・広東窯系の青花皿の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉でやや暗

めの薄青色をおびている。呉須の発色は暗く、暗灰色である。

25は日本・肥前の染付碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。薄青色の透明釉で、呉須の発色はにぶい。見込みに龍文がみられる。

26は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。薄青色の透明釉で、呉須は空色でややぼやけているが発色は良い。高台内にピンホールがある。

27は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部破片である。胎土はやや灰黄色気味の灰白色で精緻、焼成は良い。薄青色の透明釉で、呉須は圈線の部分が薄いが見込みと文様は濃く発色し、暗い。外面下方部に貫入が多くみられる。17世紀後半の製品である。

28は肥前の染付見込み荒磯文碗の底部破片である。胎土はやや灰色の強い灰白色で精緻、焼成は良い。薄青色の透明釉で、呉須の発色は良好である。部分的にピンホールがみられる。見込みには焼成時に降りかかったとみられる細砂粒がみられる。

29は肥前の染付碗の底部破片である。見込みに龍文がみられる。胎土は灰白色で緻密、焼成は良好である。薄青色の透明釉で、呉須の発色は良好である。ピンホールが多くみられる。

30は肥前の染付碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。薄青色の透明釉で、呉須は空色で発色は薄めである。見込みに焼成時に降りかかった灰と思われる細粒がみられる。

31は肥前の染付見込み荒磯文碗の破片である。胎土は白色で精緻である。薄青色の透明釉で、呉須は空色でややにじんでいる。

32は肥前の染付「日」の字鳳凰文碗の口縁部破片である。胎土は灰白色で精緻である。やや灰色が強い薄青色の釉で、呉須は灰色に発色している。外面にピンホールがみられる。

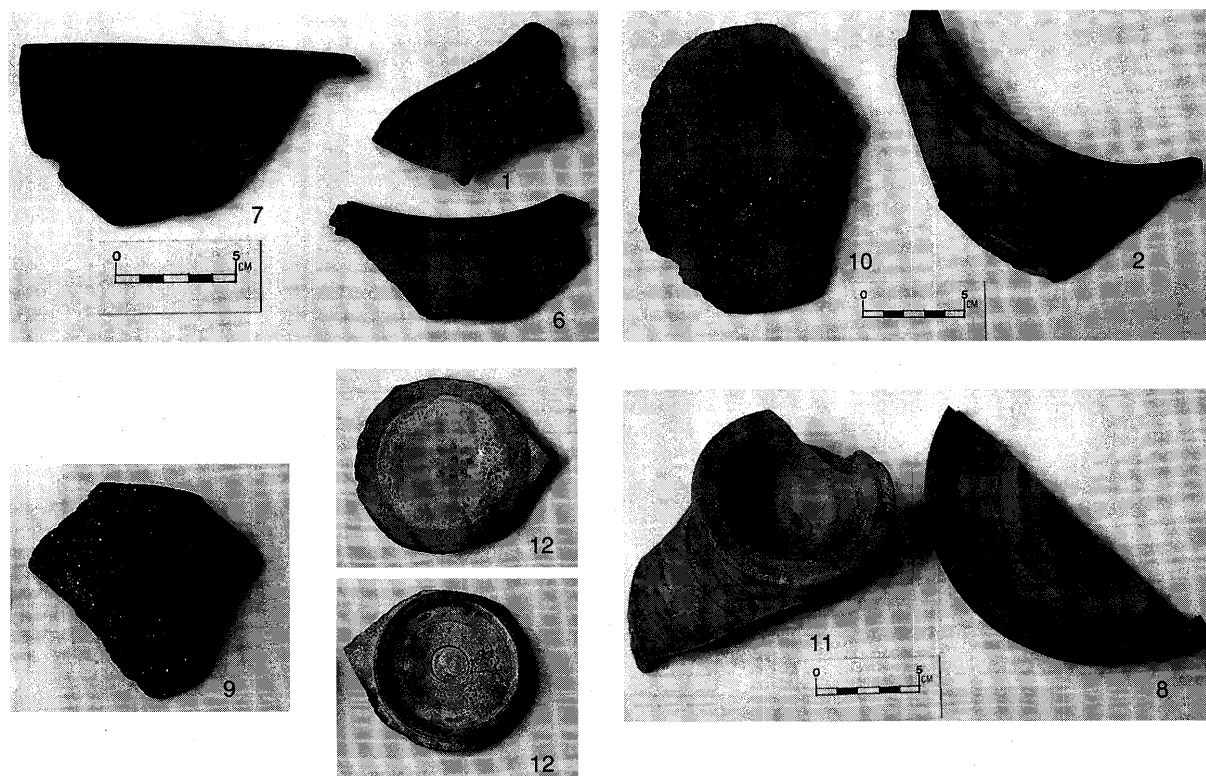


図23 チュンフォン (Trung Phung) 地点表採遺物写真

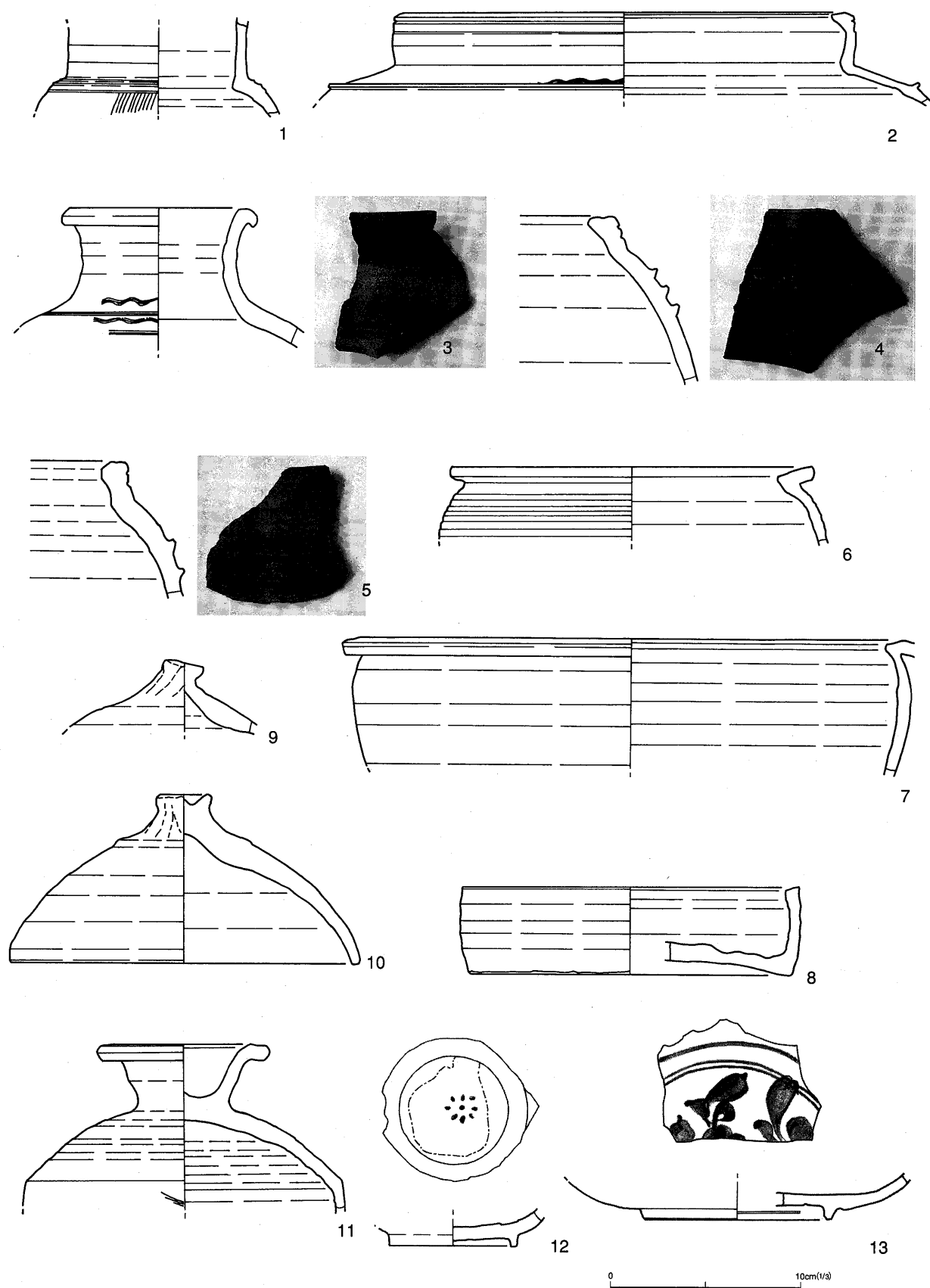


図24 チュンフォン (Trung Phuong) 地点表採遺物図

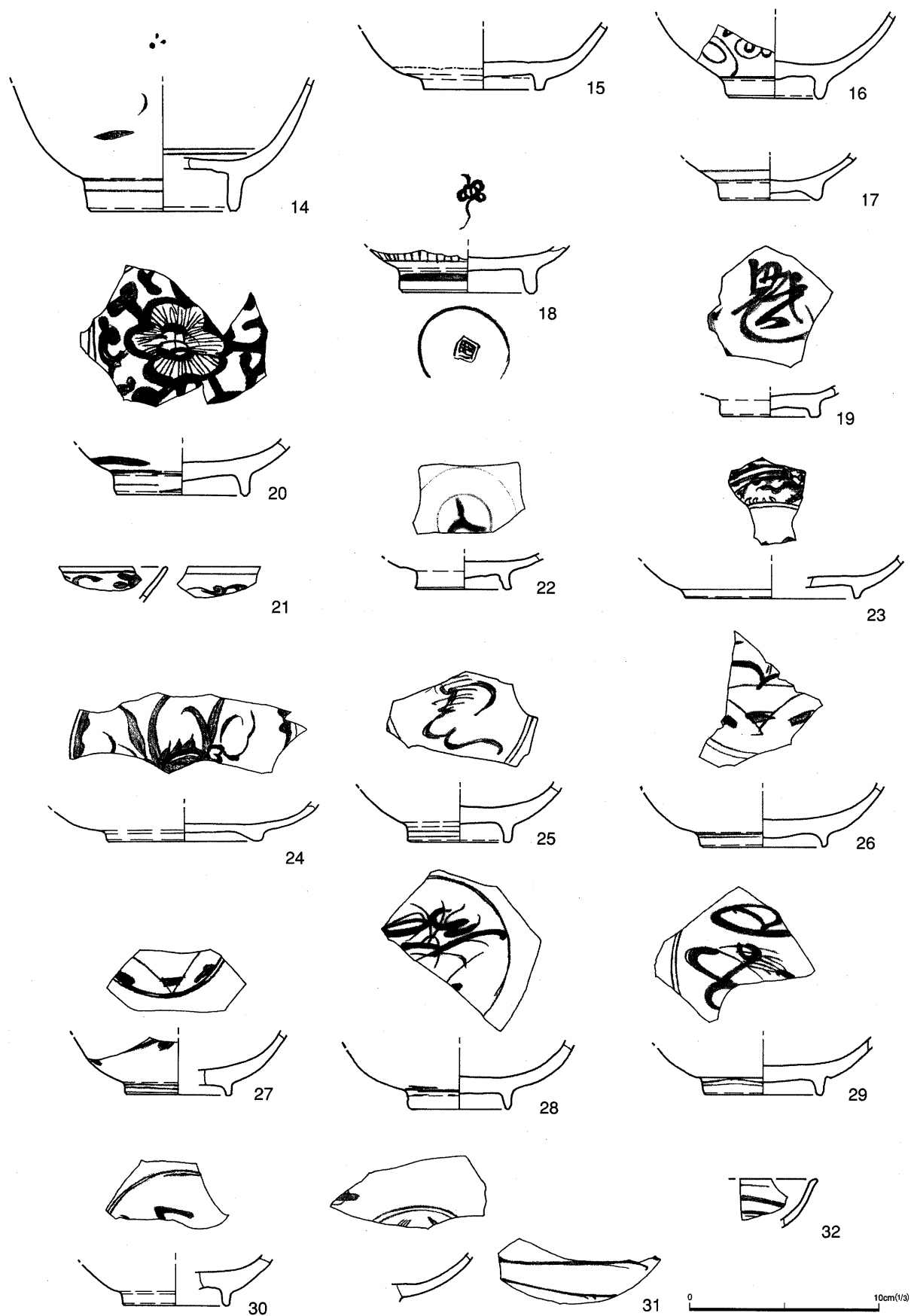


図25 チュンフォン (Trung Phuong) 地点表探遺物図

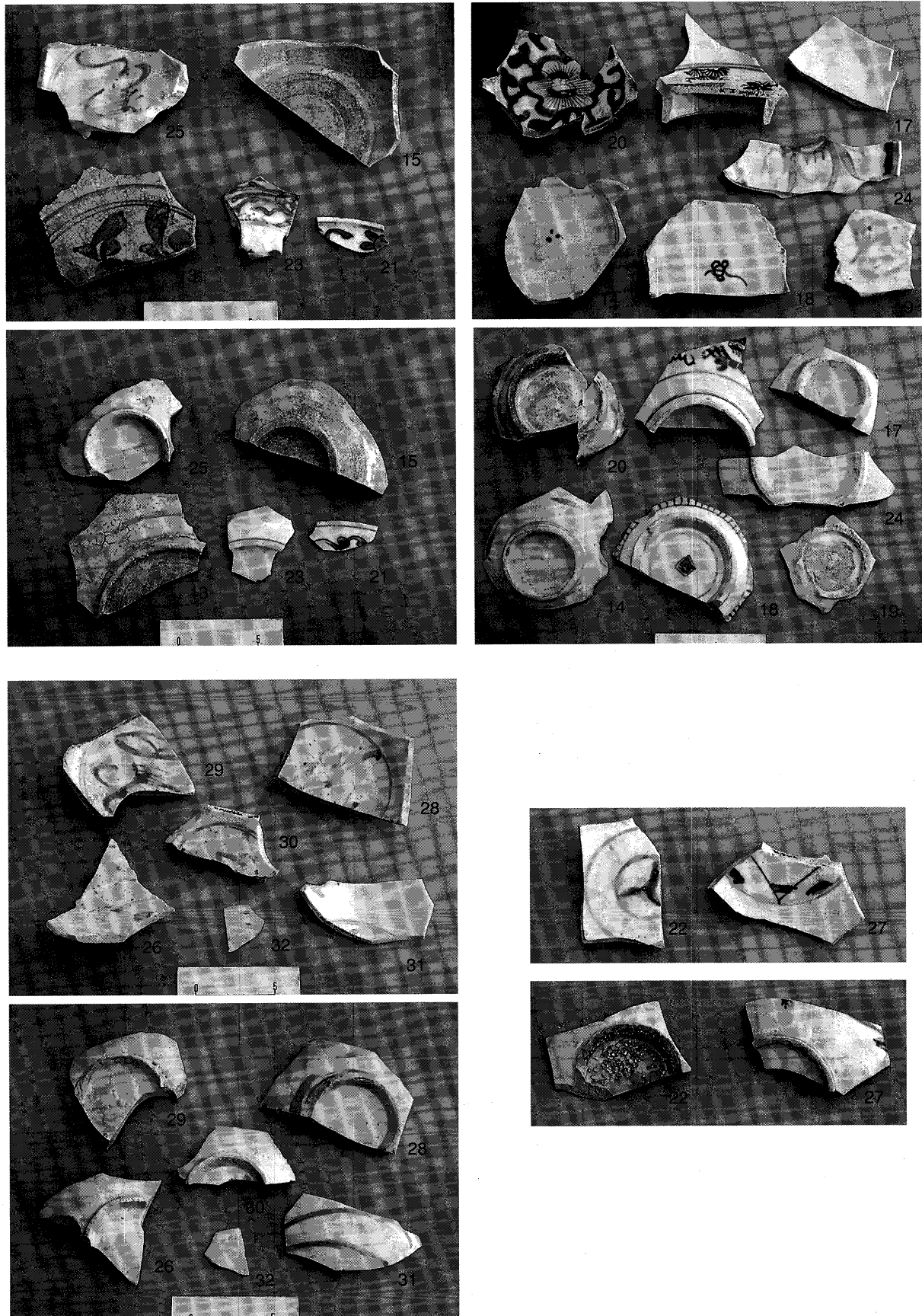


図26 チュンフォン (Trung Phuong) 地点表採遺物写真

n. 清涼寺 (Chua Thanh Luong) (図1-⑤, 図27)

清涼寺はチュンフォンからつづく砂丘地帯にあり、GPSデーターは、北緯15度51分25秒、東経108度23分36秒である。報告する遺物は寺の周辺から、1の青花碗と2の壺、3の蓋と4の壺がセットになって出土したという。そのため、出土状況からこれらは蔵骨器として使用された可能性がある。現在、寺が保管している。寺の許可をえて報告する。

1は中国福建・広東窯系の青花碗である。外面に「喜」字と唐草文が描かれている。胎土は粗く、焼成は普通である。釉調は薄青色の透明釉であり、呉須は暗く発色している。貫入が全体にみとめられ、高台付近にピンホールがあり、高台内は無釉である。見込みは釉剥され、その周辺に2条の圈線がある。17世紀前半であろう。

2はベトナムの焼締壺である。全体にヨコナデ調整があり、内面にロクロ目が残る。底部には回転糸切り痕がみられる。胎土は小石を含み、焼成は普通である。色調は内外面とも橙色である。

3はベトナムの焼締蓋である。全体にヨコナデ調整がみられる。つまみ部分と下部にオリーブ黒色の自然釉がみられる。色調は外面が鈍い赤褐色で、内面は灰色である。

4はベトナム中部の焼締壺であるが、部分的にオリーブ黒色の自然釉がみられる。肩部から胴上部には2本の凸帯があり、その間には5本単位の波状文が3段、その最下部に浅い沈線がみられ、部分的にそれが2本になっている。全体にヨコナデ調整である。また、底部には糸切り痕がみられる。色調は外面が鈍い赤褐色で、内面は灰白色である。

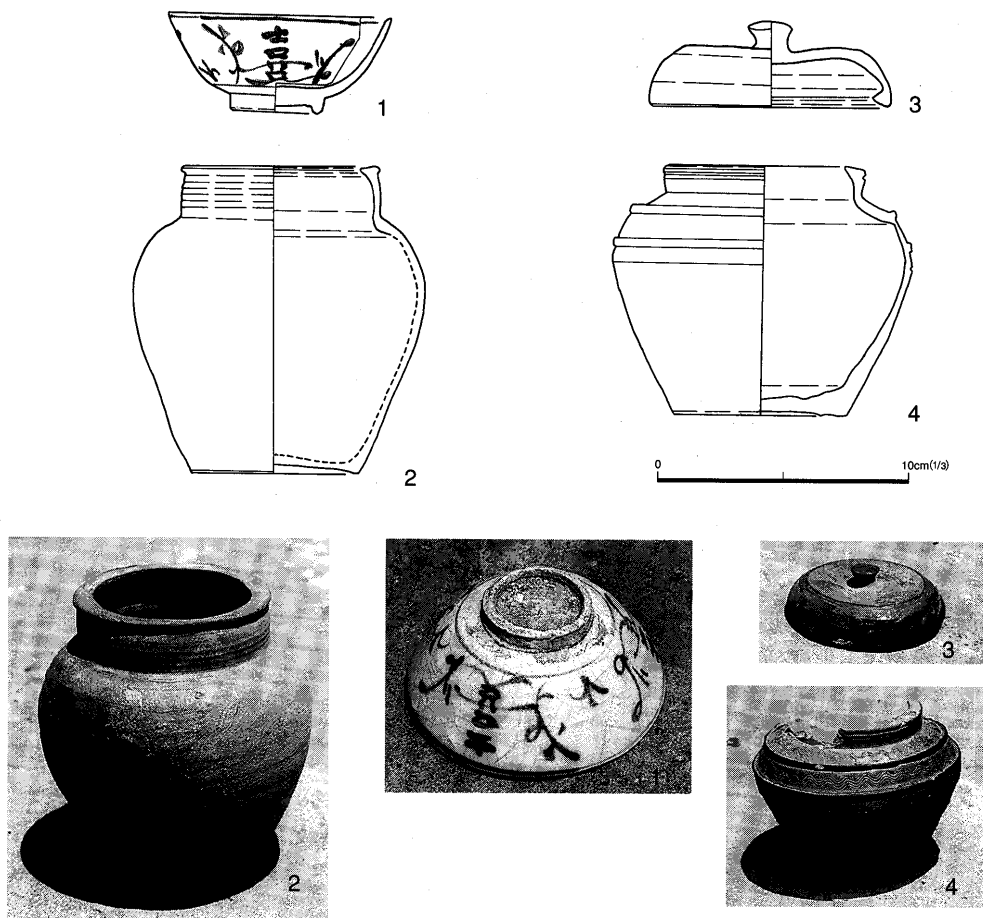


図27 清涼寺 (Chua Thanh Luong) 出土遺物図・写真

(3) トゥーボン川中洲

トゥーボン川中洲に分布する遺跡（地点）はカムキム地点、チャニウ地点である。中洲一帯では18世紀以降の遺物が分布していた。

o. カムキム（Cam Kim）地点（図1-⑥，図28）

カムキムのキムボン亭（Dinh Kim Bong）の周辺で採集した遺物である。以下に遺物を報告する。

1は中国景德鎮窯系の青花碗、もしくは鉢の底部破片である。胎土は灰白色で精緻、焼成は良好である。釉は白色がかなり強く、呉須の発色は良好だが、高台内は暗い。高台の露胎部は赤く焼けている。18世紀代の製品であろう。

2は中国福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。見込みは花文である。胎土は褐色をおびた灰白色で精緻、焼成は良好である。透明釉で薄青色をおびる。高台内面と外面に砂粒が付着している。18世紀の製品であろう。

3は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は淡黄色で精緻である。透明釉で見込みは灰白色をおび、外面は薄青色をおびる。呉須の発色は良い。

4は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は灰白色で精緻である。釉は薄青色でやや灰緑色が混ざる。呉須はかなり滲んでいる。見込みは蛇の目釉剥ぎで、重ね焼きの痕跡がみられる。

5は中国の青花碗の底部破片であると思われる。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。釉は薄青色の透明釉で、呉須の発色は良好である。見込みは蛇の目釉剥ぎである。ピンホールが少しみられる。18世紀から19世紀代の製品であろう。

6は福建・広東窯系の見込み印青花碗の底部破片である。胎土は白色で精緻、焼成は良好である。釉は灰色の透明釉で、呉須はオリーブ灰色に発色する。見込みは蛇の目状に釉剥ぎする。釉剥ぎ部と高台外面には砂粒が付着している。高台内は無釉である。18世紀代の製品であろう。

p. チャニウ（Tra Nhieu）地点（図1-⑦，図29）

この地域の地形形成は比較的あたらしい時代である。この地域は1695年にホイアンを訪れた中国僧侶釈大汕の『海外紀事』に船着き場として記録され、また『大南一統志』のなかに「南北船艘停泊之所」と記された場所である。以下に表採した遺物を報告する。

1は中国福建・広東窯系の青花「喜」字唐草文碗の底部破片である。胎土は淡黄色で精緻である。釉は薄青色の透明釉で、外面の呉須の発色は良い。17世紀末から18世紀前半の製品である。

2は福建・広東窯系の青花碗の底部破片である。胎土は淡黄気味の灰白色で精緻、焼成は良好である。釉はやや緑色をおびた薄青灰白色の透明釉である。見込みは蛇の目釉剥ぎで、釉剥ぎ部に重ね焼きの痕跡がみられる。高台内は削り痕がある。18世紀代の製品であろう。

3は中国の青花皿の口縁部破片である。胎土は淡黄気味の灰白色で精緻である。釉はやや黄味をおびた透明釉で、呉須は薄く、外面はほとんど消えている。

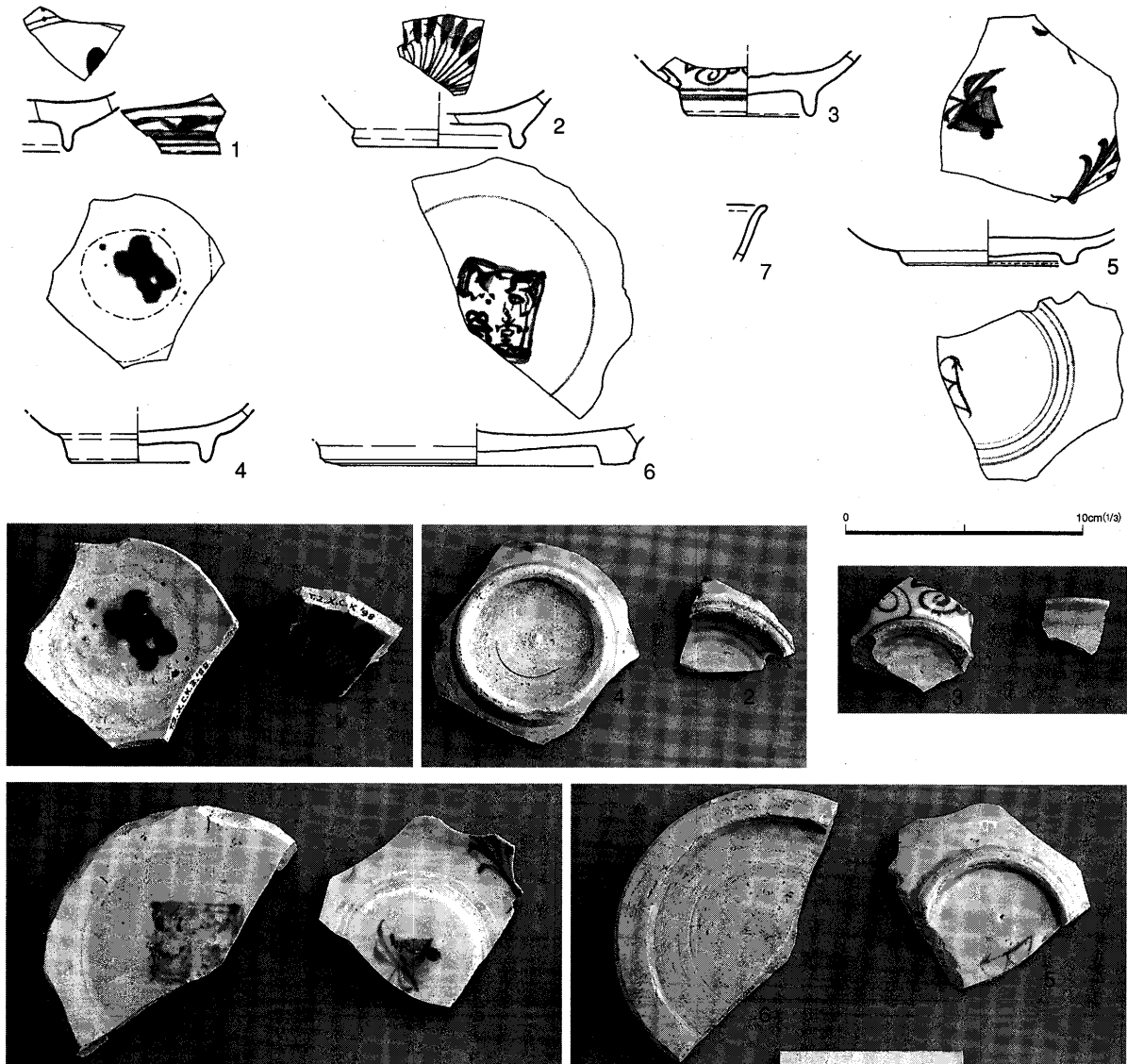


図28 カムキム (Cam Kim) 地点表採遺物図・写真

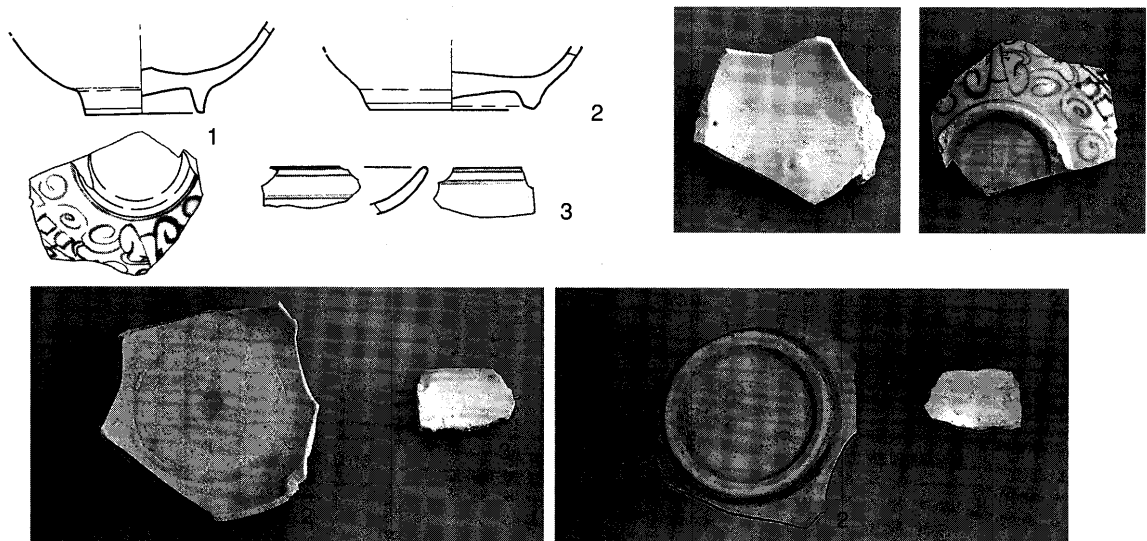


図29 チャニウ (Tra Nhieu) 地点表採遺物図・写真

3 遺跡分布からみたホイアン地域の形成と展開

分布調査の資料をもとに、ホイアン地域の形成と展開をえがくが、菊池はその成果をすでに『ベトナム日本町の考古学』（高志書院、2003年）の第1部第2章のなかに論じたことがある。そのため、本稿では、それをもとに地域形成の概要を報告したい。興味のある方は、拙著を参照いただければ幸いである。

(1) ホイアンのサーフィン文化の遺跡分布（図30）

紀元前数世紀から紀元後1世紀頃の後期サーフィン文化の遺跡が、ホイアン旧市街地から西に数kmのトゥーボン川左岸のカムハー社の砂丘上に分布している。これらは甕棺墓群の遺跡で、ホウサーⅠ地点、ホウサーⅡ地点、アンバン地点、スオンラム地点である。中国銭の貨泉や五銖銭、中国前漢代の環頭刀子と類似する環頭刀子を出土する甕棺もある。また、放射性炭素¹⁴C年代測定では、アンバン地点で2260±90B.P.、ホウサーⅡ地点で2040±60B.P.の年代があたえられている。そのため、ホイアン地域におけるサーフィン文化の年代は、紀元前4～2世紀から後1世紀頃の間とかがえられている。

この地域は、中国の遺物が出土していることなどから、すでに中国（中国南部）との交流があったとかがえられる。ホイアンから上流のトゥーボン川中流域には中国鏡の出土した甕棺やホイアン出土甕棺と類似する甕棺も検出されており、河口部とその上流部の交流を証明している。このように、トゥーボン川流域における後サーフィン文化の遺跡分布の特徴から、河口部のホイアン地域に分布する遺跡は、おそらく上流部の森林地帯にある肉桂や香木の開拓とその集積を目的として築かれたムラと関連する墓地の可能性がある。ホイアン地域は、すでに南シナ海交易世界のなかに組みこまれていたとかがえられる。

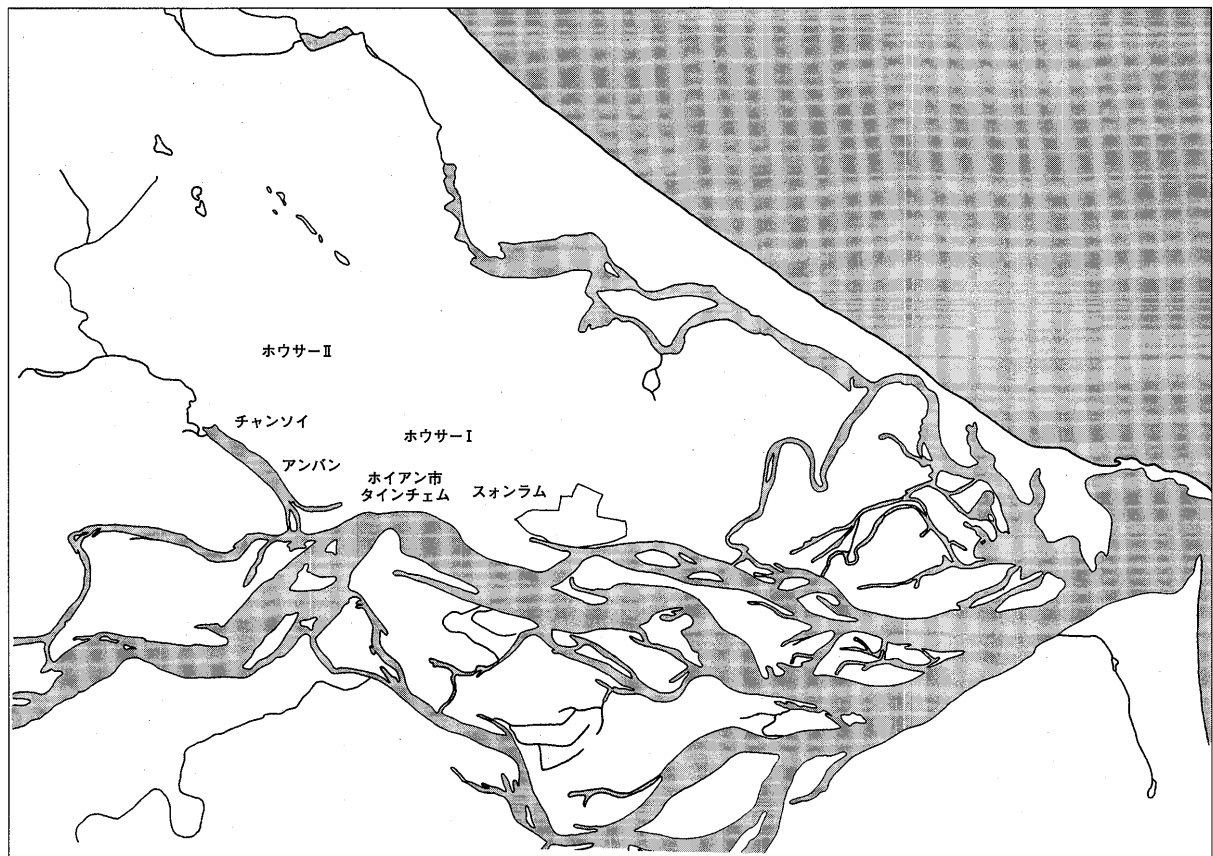


図30 サーフィン文化遺跡分布図

ただし、この地域ではサーフィン文化段階の明確な居住遺跡はまだ確認されていない。その理由を解明すること、そして近年、クーラオチャムの遺跡からサーフィン文化の土器とは異なるタイプの土器がみつかり、その系統の解明も課題となる。

(2) ホイアンのチャンパ文化の遺跡分布 (図31)

ホイアン地域のチャンパ文化に属する遺跡は、トゥーボン川左岸カムハー社の砂丘上と河口部左岸の砂丘上のカムタイン社にみられる。とくに、カムハー社の各地点はサーフィン文化の遺跡分布域でもある。

確認された遺跡は、トゥーボン川左岸のハウサーⅠ地点、ハウサーⅡ地点、チャンソイ地点、カムフォー地点、パウダー地点、ランバー建築遺構、ドンナー地点であり、右岸のコンチャム地点、そして海上のクーラオチャムである。

地点によっては、9世紀頃の中国越州窯系青磁やイスラム陶器・ガラスを出土した地点や10世紀頃のチャンパ石像や建築遺構が検出された地点など、時期別に分布の偏りがみられる。そのため、サーフィン文化の遺跡とかさなるカムハー社の砂丘上とあらたに河口付近のパウダー地点にも遺跡が形成され、こちらは12～13世紀までつづく。河口付近におけるあらたな遺跡形成の背景には、中国宋朝（960～1279年）の建国とベトナム（当時の国名は大越）との抗争を背景としたチャンパ王国の宋朝への朝貢貿易の活発化、それにともなう港の移動、あるいは拡大がかんがえられる。

中国陶磁器やイスラム陶器・ガラスの出土は、この地域がすでに東アジア世界と西アジア世界の交渉の産物であり、すでにホイアン地域が南シナ海交易世界から東西交易世界のなかに組みこまれていたことを証明する

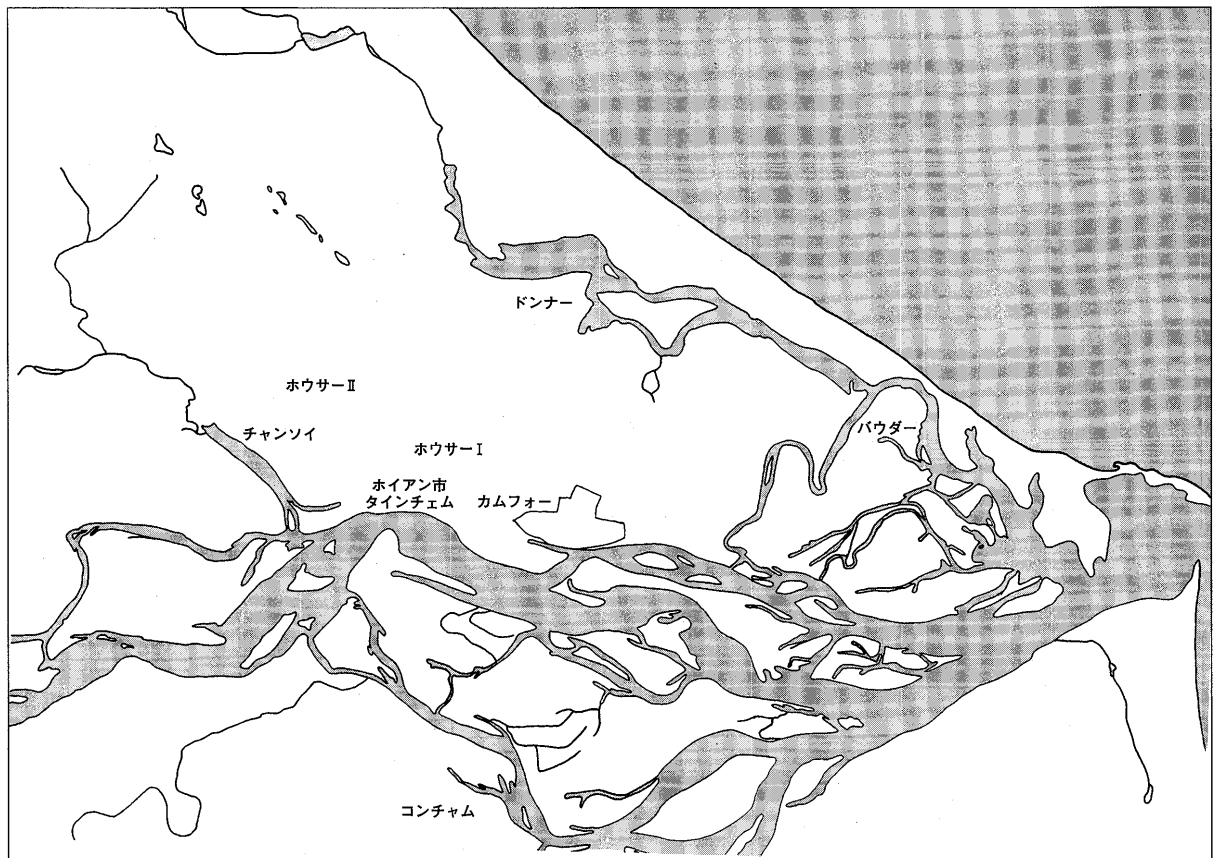


図31 チャンパ遺跡分布図

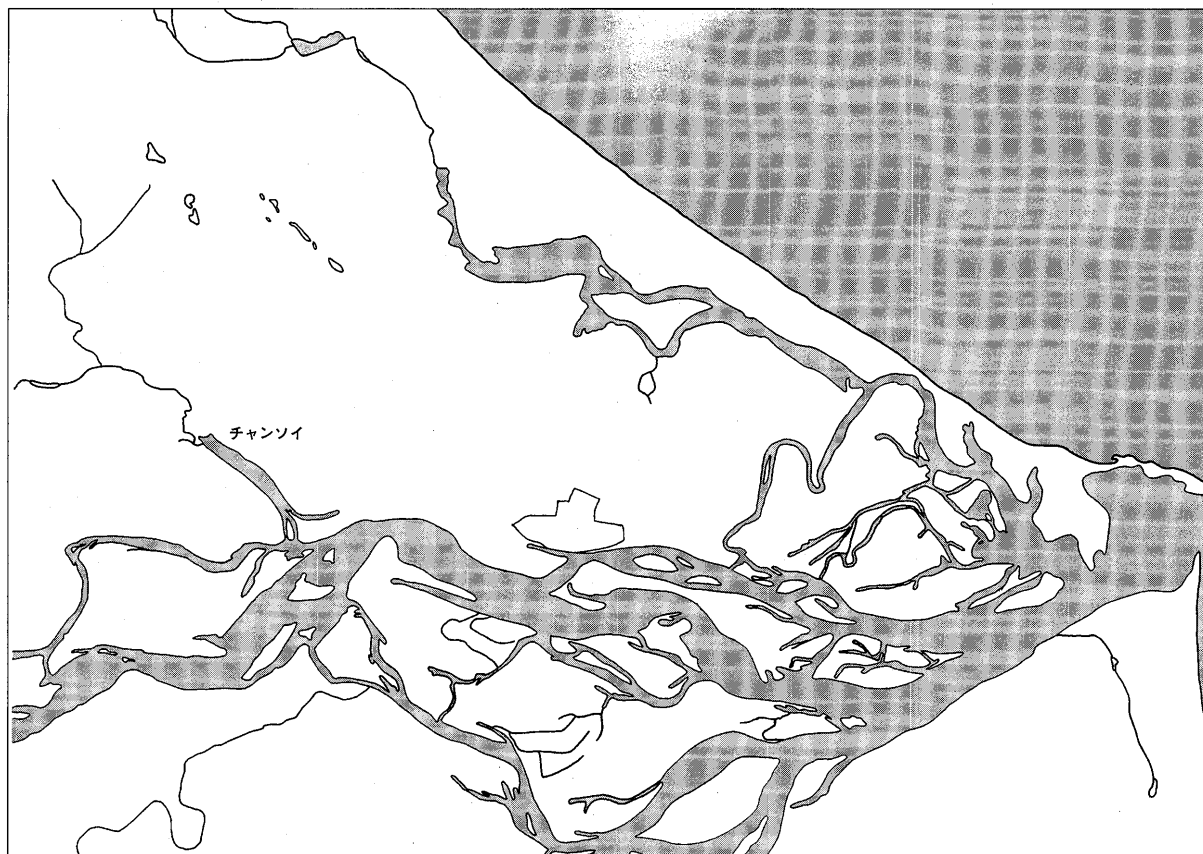


図32 15～16世紀中頃の遺跡分布

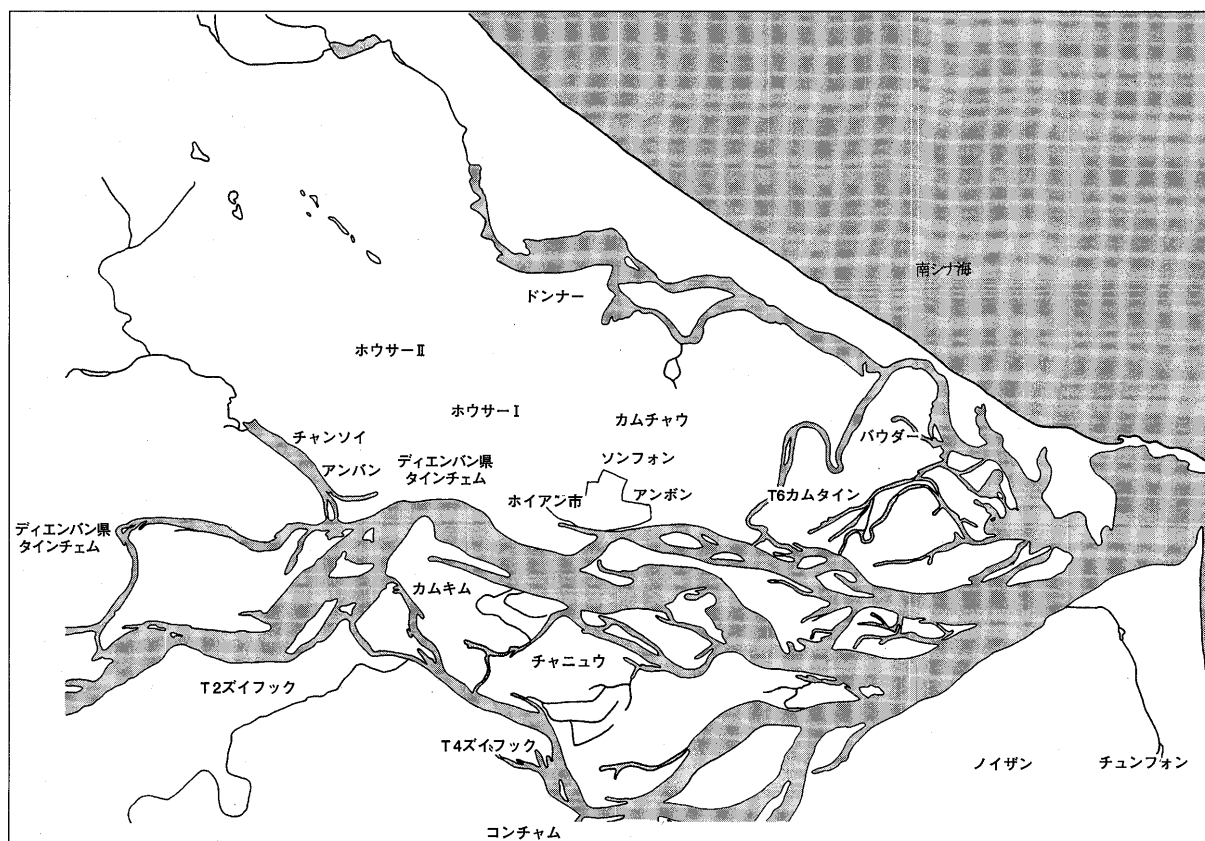


図33 16世紀後半～18世紀の遺跡分布

ものであろう。

トゥーボン川河口部で確認されたチャンパ王国時代の遺跡は、その時期の王都やミーソン遺跡に代表される宗教センターとのかかわりのなかで位置づけていく必要がある。今後の課題である。

(3) 15世紀～16世紀中頃の遺跡分布 (図32)

チャンパ王国の衰退時期である15世紀から1558年の広南阮氏「南遷」の時期までのホイアン地域は、チャンパ領土あるいは大越領土に組みこまれたり、不安定な地域であった。1471年のチャンパ王都ビジャヤの滅亡後は、この地域は完全に大越領土になった。この時期の遺跡は、ほとんど確認できておらず、わずかにチャンソイ地点でビンディン省にあるゴーサイン窯系の14～15世紀とかがえられる青磁皿が出土しているだけである。

このように、15世紀以前の遺跡分布とくらべると当該時期の遺跡数の極端な減少は、チャンパの王都ビジャヤの滅亡と深くかかわる可能性がかんがえられる。そのため、ホイアン地域はこの時期に對外貿易港としての機能を失っていたとおもわれる。

(4) 16世紀後半～18世紀の遺跡分布 (図33)

16世紀後半～17世紀代の遺跡はトゥーボン川流域に広く分布する。まず、左岸地域ではアンバン、タインチュム、ハウサーⅠ・Ⅱ、チャンソイの各地点、河口付近のパウダー、カムタイン社第5地区、ドンナーの各地点、そして、海上のクーラオチャムである。これらの地点は各文化の遺跡分布とかなることがおおい。また、ディエンバン県ではディエンバン・タインチュム地点、トゥーボン川右岸のズイスエン県チュンフォン、ノイザン、コンチャム、ズイフックの各地点である。これらの遺跡は前代の遺跡が未確認の地で、あらたに形成された遺跡群である。また、旧市街地では、発掘調査によってこの時期の遺構や遺物が多数出土している。

17世紀末以降の遺跡はさらに広範囲に分布しており、トゥーボン川左岸・右岸地域にくらべて地形形成があたらしいトゥーボン川中州のカムキムやチャニウにもみられるようになる。このように、トゥーボン川流域における当該時期の遺跡分布の特徴は、この時期に飛躍的な増大がみとめられることである。この背景には、広南阮氏政権下でのホイアン国際貿易港の発展とその人口増加にともなう未開地への進出があげられる。

この時期の問題は、17世紀に存在した「日本町」や「中国町」の位置や実態を解明することであろう。また、各遺跡の政治的、あるいは経済的な結びつきを解明し、ホイアン地域の空間構造を明確にしていくことも課題である。